

# The Kansai University Bulletin

Osaka, February 15th, 1928 - No. 56

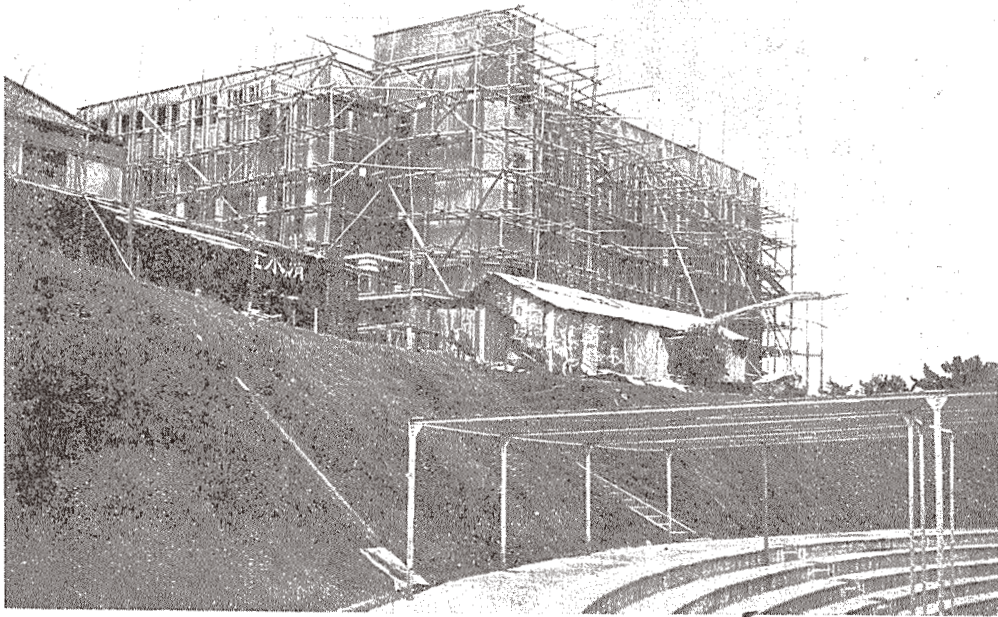
# 報學山里子

行發日五十月二

號六十五第

年三和昭

University Library on the verge of Completion.



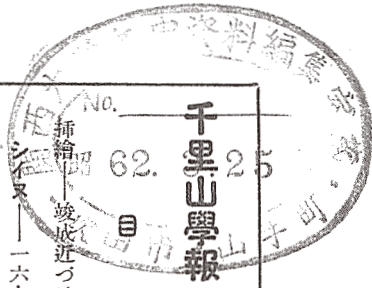
館書圖學本るけづ近成竣

阪 大

九四〇一(堀佐土)話電  
番〇七五七・〇七三七

局報學學大西關

座口金貯替振  
番五七八二一阪大



次

- 挿繪——渡成近づける本學圖書館——ジャン・ラシイヌ——一六九二年より一六九九年に至る間
- ラシイヌの住みマレエ街の家——附屬商業學校職員新年宴會——新事務理事増山忠次氏——學位授典祝賀會記念攝影——故菅沼豊次郎氏——武田宣英氏——在京校友會會合記念寄書
- クラカウに於けるコンラッド父子——ジョセフ・コンラッドの墓
- ジャン・ラシイヌ雜誌
- 關西大學講師 河盛好藏
- ピタゴラスの定理
- 關西大學教授 河村信一
- 學内報——大學豫科學期試驗施行——第三學期
- 授業開始——調査委員會——役員會開催——學位授典——學位授典祝賀會——本學關係國家試驗登第者——來學年度學生募集——講師神戶三郎氏轉居、協議員菅沼豊次郎氏逝去後報——附屬關西甲種商業學校彙報——附屬第二商業學校彙報——事務長新任——事務理事就任披露會
- 校友の面影——武田宣英氏
- 校友彙報
- 學生彙報
- 土地經濟論
- コンラッド小話
- 千里山歌壇

ジャン・ラシイヌ雜誌

關西大學講師 河盛好藏

コルネエユ、モリエール、ラシイヌ。この三人を佛蘭西古典文學史を飾る三大劇詩人云ふ。この人達に對する研究は既に完成し盡されて居る云つて良い。彼等はその力量と名聲と、大きな影響とに依てシエクスピアやアラにも必敵するのである。私はそのうちで最も佛蘭西的だと思へるジャン・ラシイヌ (Jean Racine 1639-1699) に就て、二三斷片的な雜誌を試みて見たいと思ふ。

アナトール・フランスが、その回想記「ル・プチ・ピエール」の中で次の様な事を書いて居る。それは彼が通學生としてコレエジユに入學を許された時、先生が彼に教科書として出来るだけ早く買ひ求めるべき事を命じた本の中に「エステルミアタリイ」云ふ本があつた。(此はラシイヌの晩年の二大傑作で、殊に後のアタリイミ云ふのは人に依つては、彼の最大傑作だ云はれて居る。女主人公アタリイは死んだ名女優サラ・ベルナルの當り役の一つであつた。)その名を聞いた瞬間、幼いピエールの頭の中に二人の美しい女の姿が現はれた。彼女達は矢車草や雛芥子の咲き亂れた麥畑の小徑を辿つて居る。その名はエステルミとしてアタリイ。ピエールは考へた、エステルの方が歳上で、彼女は善良な女である。アタリイは春は低いけれど美しく、豊かな金髪である。二人は田園に住んで居た。百姓小屋はやはりひの煙を棚曳かし、村の若者達は踊を樂しむ。そして廣くした牧場。こ

の二人の物語はどんなにか面白いだらうと、ピエールの心は其を讀みたさに燃えるので一杯だつた。「エステルミアタリイ」を一篇の物語と思ひ込んで居た彼は、お母さんが其は二つの別々の悲劇であるを教へても、いつかな承知をせずに、やがては下婢のジュステイヌを擱へて物語をさへ始めるのであつた。「エステルミ云ふ百姓の女がジュイ・アン・ジョアスに住んで居た。或る日野原を歩いて居たら、彼女は路ばたに、疲勞のために氣を失つて居る一人の少女に行き會つた。彼女は早速、自分の家に連れて歸へり、御飯を食べさせ、さて其の名を訊ねた。」

然し乍ら小さいピエールの此の夢も、彼が憧憬の「エステルミアタリイ」を買つた時にすつかり破れてしまつたのであつた。エステルは百姓の女ではなかつた。アタリイは乞食の少女ではなかつた。エステルはアタリイミ路で出會つたりなどはしなかつた。ピエールは夢を見て居たのだつた。何と云ふ美しく愛すべき夢であつたらう。さうして彼は再び「エステルミアタリイ」を開く事がなかつたのであつた。アナトール・フランスは此處で次の如く附け加へて居る。

「おう、優しく偉大なるラシイヌよ。最も秀れたる、最も慕はしき詩人よ。私はこんな風にして初めて貴方にお眼にかかつたのでした。貴方は今となつては私の愛であり、喜びです。凡る私の満足であり、私の最も慕はしき娯樂です。歳を重ね、人生のさまざまの經驗を得て行くに隨て、私は些しづつ貴方を知り、貴方を愛する事を學んで來ました。コルネエユも貴方の傍に在つては、達者な演説家に過ぎ

ません。さうして私は尙も思ふのです。あのモリエールさへも、貴方と同じ位眞實であるかどうか。おう、比なき師よ、凡る眞實と、凡る美が貴方の内に在る。若い日の私は野蠻な浪漫派文學の教義を實例に汚されて、悲劇作家として最も深く、同時に最も純粹なる貴方を素直には、受け入れはしなかつた。貴方の光輝を思索するに充分な力を私は缺いて居たのでした。私は常に、貴方に就て、充分なる嘆賞を以て語りはしなかつた。詩人に依つて嘗て地上に創られた最も眞實な性格を貴方が創造した事、貴方は人生そのものであり自然そのものである事に就ても私は嘗て語つた事はなかつたのでした。貴方を唯一人、まことの女性を描いて見せた。ソフォクレス、シエクスピアの描ける女性も貴方の其に比ぶれば人形に過ぎない。貴方の描いた女性のみが五感を、我がが魂と呼ぶこの内なる焰を有つて居るのです。貴方の描いた女性のみが戀ひ、焦れるのです。他のものは、ただ語るにしか過ぎない。おう、ジャン・ラシイヌよ。貴方の紀念像の礎石に、私の愛と信仰のあかしである數言を書き連ねる事なくしては私は死ぬ事を望まない。さうして若し私が、この神聖なる義務を果す運を有たなかつたら、願はくば此等粗雑なる、されど真心よりせる數行の、私が爲に遺書として役立たん事を。」



ラシイヌの姿を更に鮮かにする爲に、私は尙二、三の事に就て語りうと思ふ。

## II

ジャン・ラシイヌの詳しい傳記は略するが、彼の生ひ立ちに就て注意すべきは、彼が二歳にして母を、四歳にして父を失つた孤兒であつた事、彼は非常に信仰深い家庭に育つた事との二である。彼は父方の祖母に優しく育てられた。彼が非常に感受性の鋭敏であつた事は勿論生れつきではあるが、一つには幼くして父母を失つた境遇が與つて力があるのではないかと思ふ。それにも關はず彼が一方非常に素直な性質を有して居た事は、祖母なる人が、孤兒ラシイヌを如何に愛したかを示すであらう。全くラシイヌは育て親なる祖母マリ・デムーランに生涯感謝の心を抱いて居た様である。また彼には一人の妹があつたが彼女は母方スコナン家の方へひきこられて居たし、ラシイヌ家スコナン家は親しい交をしなかつたので、彼と妹との間の交情は非常に淡いものであつたらしく思へる。彼の遺した数多い手紙の中にも、妹のマリ・ラシイヌ宛てられたものは唯唯一通だけで、其も重要なものではない。ブレエズ・パスカルミジャックリヌ・パスカル。又はエルネスト・ルナンミアンリエット・ルナンの間の如き濃やかな愛情が二人の間に無かつたらしく思へるのは残念な氣がする。唯彼の最初の戯曲「ラ・テバード」の中にポリニスミその妹アンチゴーヌの間の暖く美しい同胞の愛情を描いてあるの注意するにべきである。

次に彼が信仰深い家庭に生ひ立つた事である。彼の叔母に當るラ・メル・アグネス・ラシイヌはポール・ロワイヤル尼僧院で要職

を占めて居たし、彼の誕生に先立つ數ヶ月間ポール・ロワイヤルの隠者達が彼の親戚の家で暫く滞在した事があつたりした。されば彼の一族は熱烈なるジャンセニストであつた。その結果ラシイヌは十六歳にして、即ちこの様な年長にも關らず破格の特點を得て一六五五年にポール・ロワイヤルの學園に入學を許されたのである。ポール・ロワイヤルミカジャンセニスト等に就ての詳細は筆者の到底力の及ぶ處でないから省略するが、この注目すべき運動に就ては、特

志の諸君は岩波講座「世界思潮」を参照されたい。ただこの學園に就ては、其は非常に年少の兒童にジャンセニスムの教義に依る甚だ嚴格な教育を施す處であつた事を申すに止める。この學園を一六五八年に出るまで三年の間、彼は専心羅典、希臘の言葉と文學を耽讀したのである。深い樹立と美しい泉石の間を日毎逍遙した少年ラシイヌが如何に詩人としての豊かな天分を育んだかは想像に餘りある。さうして彼は此處で數數の詩を書いた。また彼が希臘の戀物語を耽讀して先生にその本を取りあけられたら、今度はその本をすつかり暗記して「先

生この本も亦焚いて下さい。」と云つた云ふ有名な逸話もこの頃の事である。さてポール・ロワイヤルに少年時代を送つた事が、彼の藝術家としての方面にきただけの影響を與へたか云ふ事は非常に重要な、また興味ある問題であるが、彼が後年華かな劇壇を退いて平穩な家庭生活に歸つた事などは少くも幼時自ら氣付かざる間に、それ故、非常に深く沁みこんだジャンセニスム教育の



ヌイシラ・ンヤジ

現はれの一として見るのは正しい見解であると思はれる。更に重要なのは、彼の作品に於て、人生の暗黒面を、殊に情熱に依て理智が翻弄される種種相を、さまざまな方面から描いて居るのは、人間の弱點、現世にての不幸を極度に高調し、然も神自身の恩寵さへも此を宿命的なものに考へたベシミストな、この派の影響である事は疑ひないであらう。ポール・ロワイヤルを出て暫くして、彼はミ

デイのユゼスの僧侶なる叔父の家へやられたこれは彼の親戚の人達が彼を僧侶にしやうとしたが故である。ユゼスに送つた半年、彼は主として讀書にいそしんだのである。彼は伊太利、西班牙の二國語も新に習得した。その上、北方に生れた彼は南國の男女が熱烈なる戀をするのを見て、大いに興味を感じた云ふ。然も彼は、若くして家郷を離れた最初の長い旅であるにも關らず、これ等南國の風川草木に、その風俗に何等感傷的な氣持を誘はれはしなかつたのであつた。彼は常に冷靜な眼で以て之に對した。これは嘆賞すべきではないだらうか。寔に彼の如くに殉情を排した人も稀らしいのである。彼はあり餘る程の激しい情熱を有ち乍ら、其を常に制御し調和せんとする豊かな淨らかな理智を生れ乍らにして有して居たのである。彼は生涯その様であつた。何人にも増して人生を、藝術を、遂には信仰そのものを愛し乍ら、彼はその何れにも決して溺れる事が出来なかつたのである。

人は彼の生涯の一つの悲劇である云ふ。寔に永久に一つのものに溺れ切れない程、痛ましいものがあるであらうか。晩年の彼は自ら歎いて歌つて居る。「わが心に常に相反する二つのものありて相争ふ。」

然し乍ら一方彼は、この二つの相反するものを不自然に調合せ様は、また決してしなかつたのである。「人間には相反する二つのものがある。彼はその爲に常に苦しむ。それ故にこそ、人は愛すべきではないだらうか。」ラシイヌの心をかく忖度する事に依て、私は彼の性格を解釋する一つの鍵を見出し得るかの様に思ふ。さうしてかゝる心こそ、人生に對して最も誠實なる人の有つ態度ではないだ



らうか。

さて彼の爲に幸であつたか、不幸であつたか彼が跡を繼ぐべきであつたユゼスの叔父さんは訴訟事件のために無一物となり、二十歳の頃、彼は巴里に歸つた。彼の心は既に華かな藝術の世界にひかれて居たのである。彼の劇作家としての、宮廷詩人としての、または遊蕩兒としての華かな生活が始まるのである。モリエール・ラ・フォンテーヌ、ボアロオ等

の交遊、またデュ・パルク嬢、デュ・シャンメレ嬢達の戀愛生活、此等が如何に藝術家としてのラシイヌに良き刺激と營養を與へたかは云ふまでもない事である。かくて、ラシイヌは「ラ・テバイド」「アレクザンドル大王」の二習作を経て、遂に「アンドロマク」

が一六六七年、二十八歳の秋十一月、オテル・ド・ブルゴオニユ一座に依て演ぜられるや、彼の大悲劇詩人としての名聲が確立したのであつた。これより一六七七年「フエドル」を名残さして劇壇ミ手を分つに至るまでは彼の最も華しい時代であつて、彼の傑作の過半はこの時代のものに屬する。(既述の「エステル」「アタリイ」の二作は引退後の作であつて、此等は職業劇團を目指して書かれたものではなかつた。)

さて我我は彼の藝術を論ずべき場合になつて居るが、其の全豹を窺ふ事はとても紙数の許す處ではないから、今はごく簡単にその一特質を促へるのに満足して置く事にする。

III

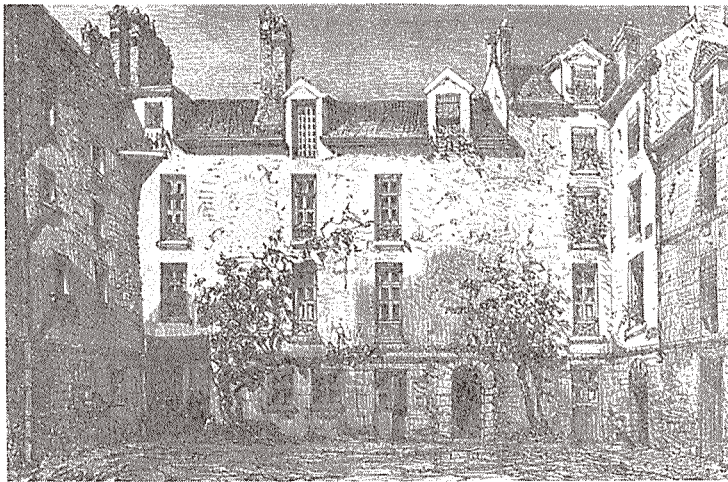
ラシイヌの十指に餘る悲劇のうち、最も悲しく、また最もラシイヌ的なもの云へば、何人も「ベレニス」を推すに躊躇しないであ

らう。これは一六七〇年、即ち彼の數へ年三十二の時の作である。人も知る如く「ベレニス」は、戀の三角關係が幕切に於て崩れる事なくして却て美しく結晶する云ふ甚だ異色ある作品である。テイチユス、アンチオキユス、ベレニス、この三人の甚だ熱烈な、同時に自制された戀が、何れも自らの思を諦める事に依て、寂しく、さりお互に愛し合せて、

別別に別れて行く云ふ、典雅、端正、調和を極めた、その上、極度にまで簡素な、古典悲劇のチビカルなものである。

コマジエヌの王安チオキユスは以前より深く、パレスチヌの女王ベレニスを慕て居るのであるが、未だ打開けざるに先立て羅馬の皇帝テイチユスの愛する處となり、既に結婚の日も近づきつつあるのであつた。幕開けばベレニスの私室の前に現れたアンチオキユスは

今宵夜に入る前にテイチユスとの結婚式が舉げられるのを聞いて、此の儘打ち開けずに羅馬を發て、東邦なる自分の故郷に歸るべきかに就て思ひ惑ふのであるが、遂にその思ひを彼女に打ちあける。が彼は其を何うしやう云ふのでもない。彼は既に充分に諦めて居る「おん身の姿を何時までも心に留めて、唯



家街エレマシ住のヌイシラ問る至に年九九六一より二九六一

唯死を待つために私は歸て行くのです。」此が別離の言葉であつた。

一方テイチユスはベレニスを此上もなく愛するのであるが、羅馬の固い掟として異邦の女を皇后にする事が出来ないのである。侍臣ポウランは身を以てテイチユスにこの結婚を思ひ留る様に諫める。それ故、羅馬帝國の爲に自らの戀を犠牲にする事を決心したテイ

チユスは、彼女を激しく戀して居る人こそ知らずにアンチオキユスに彼女を連れて羅馬を立ち去る事を願ふのである。此の事はアンチオキユスに取ては秘かな喜びであり、香かな希望の光ではあつたが心弱き彼はベレニスに其を告げ知らせる事に甚だしく躊躇する。が結局打ち開けた結果は果して豫期の如くであつた。彼は彼女より激しき怒を買ふ。

次の第四幕に於てテイチユスは初めてベレニスにこの度の結婚の不可能である事を自ら語り知らせる。彼女は悲哀と絶望の餘り失神する。これを見てテイチユスは大いに感動し、羅馬の掟を破らうと決心する。一方アンチオキユスは、常に二人の背後に在て影の如く動くのみではあるが、諦めた心は更にベレニス

に對する深き愛となり、おろおろと思ひ惑ひ取り亂し乍らも、氣を取り失つた戀人の介抱に盡し努めるのである。既に一脈の光明が彼の希望の上に冬の曇の如くよぎり、かげつたのであるから、彼の悩みは一層に痛ましく、哀しい。批評家ジュール・ルメエトルはその一代の名著「ジャン・ラシイヌ」に於て、「かくまで深い人間苦を含んだ作品を知らない。ミ特にこの幕に就て云つて居る。

遂に最後の幕が来た。テイチユスミベレニスのかくまで深い戀慕の情を知つたアンチオキユスは、初めてテイチユスに自らの戀を語り、心は激しく燃ゆるけれど、今は潔きよく身を退かう。二人の上に永久の歡びあれと祈る。ベレニスは其を押し留め、自分もテイチユスが如何に我が身を愛して居てくれたかを知つたが故に、今は彼を愛するが故に身を退く事を言明し、またアンチオキユスに向つては、彼の結婚も亦、永久に不可能である事を云ひ、さうか自分への戀を忘れて、生きて勇ましい努力をなし、テイチユスに私に、おん身の模範を示して下さい云ひ、最後に、「さらば、われ等三たり、世にも優しく不幸なる戀の模範として人の世に残りませう。われ等が苦みの物語の、人人の心に留まらん事を。」云ふ。さうして彼女は去つて行く。アンチオキユスはその後で思はず「嗟！」とただ一言を洩らす。私はこれを讀んだ時、何と云ふ秀れた幕切であらうと思つた。

然るに「十七世紀に於けるラシイヌの敵」云ふ有名な書物を書いたデルツールは、このアンチオキユスが最後に洩らす歎息は、作を甚だ弱めて居る云つて居る。さうして考へて見れば、この説は一應に道理である。何故

に對する深き愛となり、おろおろと思ひ惑ひ取り亂し乍らも、氣を取り失つた戀人の介抱に盡し努めるのである。既に一脈の光明が彼の希望の上に冬の曇の如くよぎり、かげつたのであるから、彼の悩みは一層に痛ましく、哀しい。批評家ジュール・ルメエトルはその一代の名著「ジャン・ラシイヌ」に於て、「かくまで深い人間苦を含んだ作品を知らない。ミ特にこの幕に就て云つて居る。

遂に最後の幕が来た。テイチユスミベレニスのかくまで深い戀慕の情を知つたアンチオキユスは、初めてテイチユスに自らの戀を語り、心は激しく燃ゆるけれど、今は潔きよく身を退かう。二人の上に永久の歡びあれと祈る。ベレニスは其を押し留め、自分もテイチユスが如何に我が身を愛して居てくれたかを知つたが故に、今は彼を愛するが故に身を退く事を言明し、またアンチオキユスに向つては、彼の結婚も亦、永久に不可能である事を云ひ、さうか自分への戀を忘れて、生きて勇ましい努力をなし、テイチユスに私に、おん身の模範を示して下さい云ひ、最後に、「さらば、われ等三たり、世にも優しく不幸なる戀の模範として人の世に残りませう。われ等が苦みの物語の、人人の心に留まらん事を。」云ふ。さうして彼女は去つて行く。アンチオキユスはその後で思はず「嗟！」とただ一言を洩らす。私はこれを讀んだ時、何と云ふ秀れた幕切であらうと思つた。



なら彼に従へば、アンチオキユスはテイチユス、ペレニスに比べて一段其役の重要さが落ち、その性格も甚だ劇的でない云ふのであるから、この影の如く作の背後に動いて居るアンチオキユスが、幕の最後にまた再び歎きの聲を發するのを厭ふた事は道理なのである。然し乍ら私はアンチオキユスを他の二人に比して劣る居るはさうしても思へない。それ處か、彼こそ、この作の有つ哀しみを如何に深めて居るかを思ふのである。

抑詩人が哀しみを描き、また歌ふ時、若し彼が、その歌はれたる哀しみの感情の真唯中に在て、其に搖られて居る時、彼の作の有つ効果は、其が藝術的に醗酵され切て居ないから或る種の人人には強く迫るものがあつても、他の人人にはたゞ馬鹿らしき殉情さしか見えないものである。然し乍らラシイヌの描ける悲劇に於ては作者は題材を常に確實に把握して居る。彼は其を冷靜に凝視し、判斷して居る。けれど其のみにても作品が優秀である事は出来ないのである。これは自然主義作家達のやり方であつた。哀しみをただ如實に寫したのみでさうして其が讀者を悲しませ得るであらう。作者がその描かんとする哀しみに對して常に充分なる同感を有たねばならない。

描かんとする哀しみを自らも眞實に悲んで居るさう云ふ情熱があつてこそ、その描かれたものが人人に迫るのである。

この描かんとするものを冷靜に把握し、批判し、然も其に對して深い情熱と感興を抱いて居る、さう云ふ大詩人としての最大の資格を實に、ジャン・ラシイヌは有して居たのであるさうして、かのアンチオキユスの最後の歎息こそ、この作中を流れる切切たる哀愁に對す

るラシイヌ彼自身の歎息ではないだらうか。悲劇「ペレニス」は、アンチオキユスの最後の嗟歎を得て、初めて全篇を流れる哀しみが結晶するのではないだらうか。されば、人はこの作を讀む毎に常に新しい哀しみを感ずる。それは慣れては居るけれど、奏でるごとに新しい力で身に沁み徹るのである。これは彼の作中では決して力強いものではない。けれど永久に盡きざる哀しみの泉である。

詩人シャルル・ゲランが、友なる詩人フランシス・ジャムに與へた愛すべき詩の中で友よ、一度生れたからには書物だつて年をこるであらう。僕達が泣いた場所で、他の人人は笑ふであらう。

さう云て居る。けれどラシイヌの悲劇は、いつの世にまで、永久に變らない悲劇美を有つ事を私は信じて疑はないのである。附記。これは舊稿であつて、今となつては甚だ不満なものであるが、筆者は昨今、匆忙を極めて居るのでこれを以て責を盡く事とする。

——一九二八・一・六——

### 孤影

言人

ほめ言葉少しもなしに語るべき友はしくなりぬ一人ゆく旅

うるさきと友をきらひて來りしがさみじまさを一人ゆく旅

こよひ又假寐の雨に故里をこそ更思ふ一人ゆく旅

習はしの「同行二人」と笠に書けし今日もさみじや一人ゆく旅

知らぬ山にたふれ伏しなば其まゝに消ゆる定めか一人ゆく旅

## ピタゴラスの定理

關西大學教授 河村信一

上代大和美術の憧憬者は法隆寺の壁畫を見て隨喜の涙を零す云ふ。科學國の巡禮者は足一度數學の殿堂に入つて其莊嚴にして均整なる建築に接し驚愕の眼を光らし感嘆の聲を放たないでは居られようか。而して其第一歩に於て深く印象に残るものはピタゴラスの直角三角形の定理である云ひ得ないであらうか。實にやピタゴラス時代より年を隔す事二千五百年、其間土地に桑海の變あり人間に有爲の天變あり萬有は百千萬劫の生滅を含み自然は十萬億兆の輪廻を経た、然も本定理は常に全く其眞理を保持し、下は初歩童幼の算術より上は高等深遠の數學に至るまで直接間接に之を利用し活用し應用しつづつある事を思へば、眞理は永久の眞理なり云ふ先哲の言を今更ながら繰返さざるを得ない。

ピタゴラスの一生として傳ふる處は甚不明である。出生の年代も紀元前五八二年前後云はれ、出生地も Samoa (サモア) Syria (シリア) Tyre (タイレ) とも云はれて居る。其數字に基く哲理も當時のピタゴラス結社たるピタゴラス學徒の唱へたる説であつてピタゴラス自身の説は如何なるものなりや甚不明である。他事は措く、數學上に於ける功績に就ても當時の原始的學界に於ける定理法則の發見は殆ど全部ピタゴラス學徒の盡力に據るものであつて、反つてピタゴラス自身の遺業としては傳ふる處は甚少ない、唯平面上の一點を圍む正多角形の問題で、直角三角形の定理はピタゴラスの發見

であるらしいと傳へられて居る。ピタゴラスは如何にして本定理を發見したか云ふ事に關しては氏が埃及幾何學の研究に従事した云ふ記録を想起すべきである。埃及人は古くから直角三角形の三邊の比は三、四、五であり得る云ふ事を知つて居た。氏は之に基いて一般直角三角形の性質を研究したのであらう。氏は紀元前五三〇年頃次の定理を呈出した。即ち「奇數を  $2n+1$  とし之を直角三角形の一邊とすれば、此の平方  $(2n+1)^2$  の差  $(2n+1)^2$  の半分即ち  $n^2+n+1$  は他の一邊であり、之に一を加へた  $2n^2+2n+2$  は斜邊である」換言すれば直角三角形の斜邊を  $h$ 、二邊  $a$ 、 $b$  をとすれば  $a^2 = (2n+1)^2$ 、 $b^2 = 2n^2+2n+2$ 、 $h^2 = (2n+1)^2 + 2n^2+2n+2$  にて表はされる云ふのであつた。氏は本定理に關する幾何學的の證明は之を行はず數量的の證明を以て満足して居たらしい實際埃及に於ける幾何學は計數的であつたから其同一系統として氏の幾何學も亦數量的であつたのは當然である云へよう。氏の後紀元前三八〇年頃 Eudoxus は他の數的關係を案出した。即ち「偶數  $2n$  を以て直角三角形の一邊とし、此の半分の平方より一を減じたる  $n^2-1$  を以て他の一邊とし、又之に一を加へたる  $2n$  を以て斜邊とする」或は前記の記法を用ふる  $a^2 = 2n^2$ 、 $b^2 = n^2-1$ 、 $h^2 = 2n^2 + n^2-1 + 2n$  なる。此の法はピタゴラスの三邊間の關係より更に巧妙ではあるが、三邊の數量の如何に關せず斜邊  $h$  一邊の差は常に一定數なる二である云ふ一般の  $n$  なる點を缺點とする。次で二十年の後 Diophantus に至り一般の形即ち  $a^2 = m^2 + n^2$ 、 $b^2 = 2mn$ 、 $h^2 = m^2 + n^2 + 2mn$  が呈出されたのである。

紀元前二九〇年頃ユークリッドは其幾何書第



一卷定理四十七に幾何學的の證明を記載した此の證明法は恐らく氏の考案であらうこの事である。尤も埃及人も直角二等邊三角形の場合に於ては簡單なる圖解を以て幾何學的に本定理を證明して居るが一般的の證明は知ら無かつたらしい。

ピタゴラス定理の純幾何學的證明は前記ユークリッド以後幾多の新法が發明され、更に逆定理及び廣義の場合(即ち「直角三角形の斜邊上に畫きたる直線形は他の二邊上に畫きたる之に相似にして相似の位置に在る直線形の和に等し」や「斜邊上之を直徑として畫きたる半圓は他の二邊を直徑として畫きたる半圓の和に等し」)に關する諸研究が呈出さるに至つた。

(1) 廣義の場合に關しては古く Hippocrates の研究がある。氏は半圓の場合及び不等邊四邊形の場合に就て記述して居る。然し其證明は存在したかどうか不明である。

此れ等の幾何學的の研究に就ては紙面の都合上略す。

二

本節に於ては直角三角形の三邊を表すべき正整数の求め方に就ての種種の研究を調べて見よう。

本問題の甚簡單なる場合に就ては前記の如く古昔から傳へられて居るが一般の解法に關しては比較的近代に至りて始めて合理的研究が呈出された。

以下の數式中  $m, n, l, l'$  は總て正整数を表すものとする。

(一) 二邊を表す二數を  $x, z$  とし斜邊を表す數を  $y$  とし  $x = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$

故に  $x^2 = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 故に  $x^2 = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 故に  $x^2 = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 故に  $x^2 = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$

$$x^2 = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$$



(照參報内學號前) 會宴年新員職校學業高屬附

本式に由れば  $x, y, z$  は整数の外に分數をも誘導する事が出来るが今は特に整数の値を求めよう。

$$x = \frac{1}{2}(p+q), y = \frac{1}{2}(p-q), z = \frac{1}{2}(p^2 - q^2)$$

即ち  $x^2 = \frac{1}{4}(p+q)^2, z = \frac{1}{4}(p-q)^2, y^2 = \frac{1}{4}(p^2 - q^2)^2$

兩節に  $4x^2 + 4z^2 = y^2$  を掛けて

故に  $x^2 + z^2 = (2m)^2 + (2n)^2$   
 或は  $x^2 + z^2 = (2m)^2 + (2n)^2$   
 故に  $x^2 + z^2 = (2m)^2 + (2n)^2$

(二)  $x = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 $x^2 + z^2 = m^2 - n^2 + 4m^2n^2 + m^2 + n^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2$   
 $y^2 = (m^2 + n^2)^2 = m^4 + 2m^2n^2 + n^4$   
 $x^2 + z^2 - y^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2 - m^4 - 2m^2n^2 - n^4 = 2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4$

故に  $x^2 + z^2 = (2m)^2 + (2n)^2$   
 之より前法と同じく  
 $x = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 $x^2 + z^2 = m^2 - n^2 + 4m^2n^2 + m^2 + n^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2$   
 $y^2 = (m^2 + n^2)^2 = m^4 + 2m^2n^2 + n^4$   
 $x^2 + z^2 - y^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2 - m^4 - 2m^2n^2 - n^4 = 2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4$

(三)  $x = m^2 - n^2, z = 2mn, y = m^2 + n^2$   
 $x^2 + z^2 = m^2 - n^2 + 4m^2n^2 + m^2 + n^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2$   
 $y^2 = (m^2 + n^2)^2 = m^4 + 2m^2n^2 + n^4$   
 $x^2 + z^2 - y^2 = 2m^2 + 2n^2 + 4m^2n^2 - m^4 - 2m^2n^2 - n^4 = 2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4$

が整数である爲めには先づ根號内の完全平方なる事を要する。故に  
 $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$   
 $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$   
 $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$

即ち  $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$   
 又は  $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$   
 $2m^2 + 2n^2 - m^4 - n^4 = (m+n)^2$

なるを要する。此の二つの場合は要するに同一に歸する事が出来るから甲を採用する。由て  
 $x = (n+m)^2 + 2n(n+m)$   
 $z = (n-m)^2 + 2n(n-m)$   
 $y = (n-m)^2 - 2n(n-m)$   
 $x = (n+m)^2 + 2n(n+m)$   
 $z = (n-m)^2 + 2n(n-m)$   
 $y = (n-m)^2 - 2n(n-m)$

故に  $x = (n+m)^2 + 2n(n+m), z = (n-m)^2 + 2n(n-m), y = (n-m)^2 - 2n(n-m)$   
 $x = (n+m)^2 + 2n(n+m), z = (n-m)^2 + 2n(n-m), y = (n-m)^2 - 2n(n-m)$   
 $x = (n+m)^2 + 2n(n+m), z = (n-m)^2 + 2n(n-m), y = (n-m)^2 - 2n(n-m)$

(四)  $x^2 + z^2 = y^2$  を書換へて  
 $x^2 + z^2 = y^2$   
 $x^2 + z^2 = y^2$   
 $x^2 + z^2 = y^2$

(五) 古き和算書の一證を次に書から。  
 二つの外切する圓  $Y, Z$  を書き其中心を  $Y$  及び  $Z$  とし二圓の共通切點を通らない共通切線を引き二圓との切點を夫れ夫れ  $O$  及び  $P$  とす  $Z$  から  $YO$  への垂線の足を  $X$  とすれば三角形  $XYZ$  は直角三角形であるから  $XY = y, XY = z$  とすれば  $x^2 = y^2 + z^2$  兩圓の半徑を夫れ夫れ  $R, r$  とすれば  
 $x = R+r, 2R \cdot OP = OP \cdot 2r$   
 $\therefore OP^2 = 4Rr \therefore OP = 2\sqrt{Rr} = y, XY = R-r = z$   
 故に  $x = R+r, y = 2\sqrt{Rr}, z = R-r$

本式に於て  $y$  が整数である爲めには  $2\sqrt{Rr} = y$  である事を要する。即ち  $R = m^2, r = n^2$  で無ければならぬ。由て  
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$   
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$   
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$

(六) 本法も亦古き點竄書に所載のものである  
 $(x^2 + z^2)^2 = y^4 + 2y^2z^2 + z^4 = (y^2 - z^2)^2 + (2yz)^2$   
 $x = m, z = n$  とすれば  
 $x = m, z = n$   
 $x = m, z = n$

本式に於て  $y$  が整数である爲めには  $2\sqrt{Rr} = y$  である事を要する。即ち  $R = m^2, r = n^2$  で無ければならぬ。由て  
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$   
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$   
 $x = m^2 + n^2, y = 2mn, z = m^2 - n^2$

以上數種の方法に由て得たる結果は何れも同一であつて  $m$  及び  $n$  を任意正整数とする  $(m, n)$  邊  $x, y, z$  は夫れ夫れ  $m^2+n^2, 2mn, m^2-n^2$  に由て表はさるべき事がわかつた。  
特別な場合である  $n=1$  の時は前記の Plato の公式である。

### 三

前節に於て得たる一般式を用ひて  $x, y, z$  を計算すればそれ等の内には公約數を有するものもある。之れ等を全く相異つた種類の數として取扱ふ事は妥當では無い。然らば此の如き公約數を有するものを除外するには如何なる制限が  $m$  及び  $n$  に加へらるべきであらうか。  
 $m, n$  二數間の關係は先づ其奇偶に由る三個の場合がある。即ち共に奇數であるか、共に偶數であるか、又は一が奇數一が偶數であるかの三つの場合があるが、之より先に他の場合を考へる事にする。

(甲)  $m, n$  が公約數を有する場合

此の場合には三數  $x, y, z$  は  $m, n$  の公約數の平方に等しい公約數を有して居るから前記の目的に對しては勿論不適である。

(乙)  $m, n$  が互に素數をなす場合

此の場合には更に小別すれば次の二つの場合を生ずる。

(a)  $m, n$  共に奇數なる時

此の時は  $m^2+n^2$  及び  $2mn$  は共に偶數である由て  $x, y, z$  も皆偶數である、故に此の場合も除去すべきである。

(b)  $m, n$  の内一が奇數一が偶數なる時

此の時は  $m^2+n^2$  及び  $2mn$  は共に奇數である而して  $2mn$  は偶數である。由て  $x, y, z$  は偶數の公約數を有せざる事は明らかである。但し

奇數の公約數があるかも知れないから吟味を要する必要がある。  
今  $m=2a, n=2b+1$  かつ  $n=2c$   
 $m^2+n^2=4a^2+4b^2+4b+1$   
 $n^2-n^2=4c^2-4b^2-4b-1$   
 $2mn=8ab+4a$

此の三數は奇數の公約數の無い事がわかる同様に  $m=2a+1, n=2b$  としても同じ事がわかる。故に  $x, y, z$  は奇數の公約數も偶數の

$x^2=y^2+z^2$  に適する  $x, y, z$  の整數値

$m$	$n$	$x$ ( $m^2+n^2$ )	$y$ ( $2mn$ )	$z$ ( $m^2-n^2$ )
3	1	5	3	4
5	1	13	5	12
7	1	25	7	24
9	1	41	9	40
11	1	61	11	60
13	1	85	13	84
15	1	113	15	112
17	1	145	17	144
19	1	181	19	180
5	3	17	15	8
7	3	29	21	20
11	3	65	33	36
13	3	89	39	80
17	3	149	51	140
19	3	185	57	176
7	5	37	35	12
9	5	53	45	28
11	5	73	55	48
13	5	97	65	72
17	5	157	85	132
19	5	193	95	168
9	7	65	63	16
11	7	85	77	36
13	7	109	91	60
15	7	137	105	88
17	7	169	119	120
11	9	101	99	20
13	9	125	117	44
17	9	185	153	104
13	11	145	143	24
15	11	173	165	52
15	13	197	195	28

公約數も無い。

結論として  $x, y, z$  が公約數を有せ無い爲めには  $m, n$  を互に素數で且一は奇數一は偶數である様に撰ぶ事を條件とする。

或は次の如く條件を決しても良い、先づ  $x, y, z$  の一般形を次の如く書き換へる。

$$x = \frac{m^2+n^2}{2}, y = mn, z = \frac{m^2-n^2}{2}$$

本式に於て  $m, n$  は先づ共に偶數であるか奇數である事を要する。何となれば  $x, y$  が整數である爲めには  $m^2+n^2$  が偶數で無ければならないからである。然し甲の場合には公約數が存在するから之を除き、乙の場合のみを考へ前記同様にして、求むる條件は  $m, n$  が互に素數であるべき事が證明される。  
故に本一般式を用ふれば結論として  $m, n$  が共に奇數であつて互に素數である事を條件と

- (1)  $m^2+n^2$  は偶數である。
- (2)  $x, y, z$  は六十の倍數である。
- (3)  $y, z$  の内何れかは必ず偶數である。
- (4)  $x, y, z$  の内二つが奇數である事は有るが二つ共偶數である事は無い。
- (5)  $x, y, z$  の内一つが奇數一つが偶數であれば他は必ず奇數である。
- (6)  $y, z$  の内何れかは必ず三の倍數である。
- (7)  $y, z$  の内何れかは必ず四の倍數である。
- (8)  $y, z$  の内何れかは必ず五の倍數である。
- (9)  $n$  が 2 より大或は小なるに従て

### 五

(01)  $\frac{m^2+n^2}{2}$  に從て  $\frac{m^2-n^2}{2} < 2+1$

以上の各節に於て  $x, y, z$  に適する  $x, y, z$  の正整數値に關する初等數學の範圍に於ける諸種の研究を述べた。次に一般に  $m, n$  に適する  $x, y, z$  の正整數の存在し得べきや否や又此れに對し  $n$  の制限の必要があるか否かを考へて見よう。

此の問題に對し 2 より大なる  $n$  には不可なる事は既に Fermat が唱へた處である。然し氏は一般的の證明を與へ無かつた。其後 Euler を始め諸家の  $m=3, 4, 5, 7, 13$  の場合に於ける證明が發表されたが茲には之等を省略する。

此の内  $m=11$  の特別の場合、即ち一邊既知の正立方體の二倍なる正立方體の一邊を求むる問題は古來幾何學の三大問題として有名

なものであるから、本論からは脱保するが附



言として其幾何學作圖題としての歴史に就て數行を費さうと思ふ。昔 *Pythagoras* 人が流行病の災を蒙つた時神告に由て其立方形祭壇を二倍のものに變更する必要の有つた時工人が不用意にも原立方體の一邊を二倍にしたものを作つたので神慮を和らげる事が出来無かつた。此の誤を正す爲めに *Plato* の教示を乞ふたのに對して氏は此問題を解いた云はれて居るが其方法は幾何學的で無く即ち定規とコンパス以外の他の機械を用ふる機械的方法であつた。此の問題は *Delos* 人に關して居るので其後 *Delian Problem* として人口に膾炙するに至つた。 *Hippocrates of Chios* (紀元前四三〇年) は本問題に就て研究し本問題は要するに與線と其二倍數との間に二つの比例中項を挿入する事に歸すべき事を云つた。即ち  $a, x, y, z, b = a^2, x^2 = ay, y^2 = 2ax$  を得從て  $x = \sqrt{2a^3}$  なるからである。然し此の作圖題は幾何學的には成功せざるものである。其後諸家の研究が續出したが結局本問題は初等幾何學作圖題としては不能の問題である事が證明されたのである。

六

$z^2 = y^2 + a^2$  なる關係を有する正整數は存在しないが  $x^2 = y^2 + z^2 + a^2$  なる關係を有する正整數は存在する。此の如き整數の求め方は少しく複雑ではあるが原理は簡單であるから次に記述しよう。

今  $x = r+s, y = r-s, z = p+q, v = p-q$  とすれば

$$x^2 - y^2 = 2s(s+r), z^2 + v^2 = 2p(p+3q^2)$$

即ち  $s(s^2+3q^2) = p(p^2-3q^2) \dots (A)$

然るに  $s^2+3q^2, p^2+3q^2$  は同形の公約數の外に他の公約數が有り得ないから  $s^2+3q^2$  を公約數とすれば

$$s^2+3q^2 = (f^2+3g^2)(t^2+3u^2)$$

$$p^2+3q^2 = (h^2+3k^2)(t^2+3u^2)$$

今  $s = ft+3gu, r = gt-fu$  とする時は

$$s^2 = f^2t^2 + 6fgtu + 9g^2u^2$$

$$r^2 = g^2t^2 - 2fgtu + f^2u^2$$

$$s^2 + 3r^2 = (f^2+3g^2)t^2 + 3(f^2+3g^2)u^2$$

故に 前の  $r$  の假定は正しい。同様にして  $p = ht+3ku, q = kt-hu$  とする時は

$$p^2+3q^2 = (h^2+3k^2)(t^2+3u^2)$$

なる。由て (A) 式の關係は  $(f^2+3g^2)(t^2+3u^2) = (h^2+3k^2)(t^2+3u^2)$  となる。即ち

$$f(f^2+3g^2) = h(h^2+3k^2)$$

故に  $f(f^2+3g^2) = 3gu(f^2+3g^2)$   
 $= h(h^2+3k^2) + 3ku(h^2+3k^2)$

分母を避くる爲め  $t = \frac{3k(h^2+3k^2) - 3g(f^2+3g^2)}{f(f^2+3g^2) - h(h^2+3k^2)}$

とすれば  $u = f(f^2+3g^2) - h(h^2+3k^2)$   
 $t = 3k(h^2+3k^2) - 3g(f^2+3g^2)$

上式に於て  $f, g, h, k$  に任意の値を與ふる時は  $r, u$  の値を定める事が出来る。故に

$$s = ft+3gu, r = gt-fu$$

$$p = ht+3ku, q = kt-hu$$

より  $r, p, k, q$  の値を定め、よりの

$$x = r+s, y = r-s, z = p+q, v = p-q$$

に由て  $x, y, z, v$  が定まる。

新刊紹介

宮島綱男監譯

マーシャル經濟學論集

(東京・大阪實文館發行定價金五圓五拾錢)

經濟學に於て或る學者の學說を知るためにはその人の原論又はこれに類する原理的な書物を讀むべきこと勿論であるが、その學說の特異性を明確に把握するためには原理的著作よりも却つて個個の問題に對する諸論文に依る方途に便宜な場合がある。これ特殊問題に關する論說に於ては學者の思想傾向に於ける個性が直截鮮明にあらはれるが故である。マーシャルの如き蓋しこの一例であらう。

御挨拶

關西大學事務理事 増山忠次

古來より育英教化の事業が一國の消長に至大の關係を有することは萬人の等しく認むる所でありまして、先進各國の歴史に徴するも如何に爲政者が力を茲に致してゐたかが窺はれるのであります。

關西大學が創立以來四十餘年に互る長年月間に邦家文教に少からざる貢獻を爲したることは現今社會各方面に活動されてゐる校友諸氏の數に見ても之を知り得るのであります。この長き歴史と榮ある前途を控ゆる我學園の使命は實に鼎の如きものがあります。不肖今回關西大學事務理事に就任いたしましたして、熟その責務の重且つ大なるものあるを痛感するのであります。微力固より此重責に堪え得ざるを懼るる者であります。唯公論正道に基き華を避け實に就き専心本學の爲に微力を致さんご決心するのみであります。幸に本學關係者並に江湖識者諸彦の懇切なる御指教を賜はることを得ば當に不肖の欣懐のみではありません。一言所感を披瀝して就任の御挨拶に代へる次第であります。

本質を究むること極めて困難なりとせられてゐる從つて個個の諸問題に對してマーシャルが眞意を吐露せる論文を集めた本書の如きはマーシャルの思想學說を知る上に於て極めて重要な文獻であり他の原理的著作と相並んで行はるべき好著である

原著者マーシャルはミルの時代に生きたエヴォルズと同じ學界の空氣を呼吸した人、本書の内容をなす二〇篇の論文は原著者の長き生涯に互る經濟學の推移を反映して宛然一の經濟學史たる觀がある。加ふるに巻頭ケーンズ氏の筆になるマーシャル傳はこの經濟學界の巨人の面影を傳へて餘蘊なく、ピグー教授その他數氏の回顧録は挿入の寫眞版と共に永く遺さるべき原著者の記念であらう。

譯筆亦明快・讀むに足る。ここに紹介して致して江湖に薦むる所以である(T・M生)



数字に由る一例を計算する

$$k=0, h=1 \text{ となる}$$

$$l = -3g(f^2 + 3g^2), u = f(f^2 + 3g^2) - 1$$

$$s = -3g$$

$$r = -(f^2 + 3g^2)^2 + f$$

$$p = -3gf^2 + 3g^2$$

$$q = -f(f^2 + 3g^2) + 1$$

$$x = -(f^2 + 3g^2)^2 - 3g + f$$

$$y = -(f^2 + 3g^2)^2 + 3g + f$$

$$z = -(f^2 + 3g^2)(3g + f) + 1$$

$$v = -(f^2 + 3g^2)(3g - f) - 1$$

$$\text{若し } f=1, g=-1 \text{ ならば}$$

$$x = -12, y = -18, z = 9, v = 15$$

$$\text{即ち } -12^2 = -18^2 + 9^2 + 15^2$$

$$\text{即ち } 18^2 = 9^2 + 12^2 + 15^2$$

$$\text{兩節を } 3 \text{ にて除すれば}$$

$$6^2 = 3^2 + 4^2 + 5^2$$

若し  $k, h$  の値は前同く  $f = -1, g = 1$  する

$$x = -20, y = -14, z = -7, v = -17$$

$$\text{即ち } 20^2 = 7^2 + 14^2 + 17^2$$

の關係式が出来る

七

$n$  が 5 の場合

$$x^5 = a^5 + b^5 + c^5 + \dots$$

に適する正整数の存在すべき事も證明せられる。然し之れが證明は省略して唯数個の實例を擧ぐるに止めて置かう。

$$2^5 + 3^5 + 5^5 + 7^5 + 10^5 + 12^5 + 13^5 + 16^5$$

$$+ 23^5 + 30^5 + 50^5 = 51^5$$

$$3^5 + 6^5 + 7^5 + 8^5 + 10^5 + 11^5 + 13^5 + 14^5$$

$$+ 15^5 + 16^5 + 18^5 + 31^5 = 32^5$$

$$5^5 + 10^5 + 11^5 + 16^5 + 19^5 + 29^5 = 30^5$$

$$4^5 + 5^5 + 6^5 + 7^5 + 9^5 + 11^5 = 12^5$$

$$4^5 + 5^5 + 6^5 + 7^5 + 9^5 + 11^5 + 15^5 + 18^5$$

$$+ 21^5 + 27^5 + 33^5 = 36^5$$

$$4^5 + 5^5 + 6^5 + 7^5 + 8^5 + 9^5 + 10^5 + 11^5$$

$$+ 14^5 + 18^5 + 22^5 = 24^5$$

$$4^5 + 5^5 + 6^5 + 7^5 + 9^5 + 11^5 + 13^5 + 15^5$$

$$+ 16^5 + 17^5 + 18^5 + 19^5 + 20^5 + 21^5 + 22^5$$

$$+ 23^5 + 25^5 + 27^5 + 28^5 + 29^5 + 30^5 + 31^5$$

$$+ 32^5 + 33^5 + 34^5 + 35^5 = 50^5$$

$$4^5 + 5^5 + 7^5 + 8^5 + 9^5 + 11^5 + 12^5 + 16^5$$

$$+ 18^5 + 19^5 + 20^5 + \dots + 45^5 = 70^5$$

八

以上ピタゴラス定理の數的關係を述べ尙之れが擴張に就て數言を覺した。茲に本篇を終るに際して一言を附け加へさせてもらはう。

數を神秘とし其奇性に驚くのは甚幼稚な思想であるかも知れないが迷信的な數字の好嫌以後、前述の如き研究の裡には其處に云ひ知れぬ數の秘密が藏せられては居りはしまいか。

予は蠱惑的な數字の行列を以て人目を昏迷し以て無理に數學殿堂の有難味を宣傳する譯では無いが、然し佛像の金色燦然たるは田夫野婦を驚かす以上宗教的の或る意味を含蓄して居るが如く、或は大著述の裝幀に美を争ひ研

を競ふ事は賣らん哉以上に深甚の意味の有るべき事を思へば、本篇の如きも亦數學は徒らに高尚深遠近くべからず親しみ難きものであると思惟する人士に一服の惚れ藥の役を務める事も有りはしないか。若し少しなりとも効果があったら著者の本望は之に過ぎないのである。

× × ×

學内報

大學豫科學期試驗施行

都合により延期せられて居た大學豫科學年度第二學期試驗は一月十一日より一月十七日に互つて施行せられた。

第三學期授業開始



新事務理事 山次 氏

員中より左の諸氏が調査委員に選任せられた。

- 川崎齊一郎、川勝武夫、武田貞之助、武田宣英、内藤正剛、野田文一郎、黒田莊次郎、増山忠次、後藤武夫、木村清、菅沼豊次郎

以上十一氏  
超えて本年一月十日午後四時から大阪俱樂部に於てその第一回會合が開かれ、各委員出席の上種種打合せするところがあつたが、席上委員菅沼豊次郎氏逝去につきその補缺として

砂川雄峻氏を推し協議員 諸氏の同意を求むることに決定した。

役員會開催

一月十七日午後一時から山岡總理事邸に於て本學役員會を開催、經營に關する諸問題を協議した。

學位授與

東京在住、辯護士武田宣英氏(明治二十三年關西法律學校出身)は豫ねて本學教授會に「日本陪審

法論」なる學位論文を提出中であつたが、右論文はこの度教授會の審査に合格したるに依り、本學では文部省に對し學位授與の認可を申請したるに、去る一月十九日附認可あり、仍つて左記の學位記に依り同氏に「法學博士」の學位を授與した。

學位記

東京府土產 武田宣英

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本大  
學教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ大正  
九年勅令第二百號學位令第二條ニ依  
リ茲ニ法學博士ノ學位ヲ授與ス  
昭和三年一月十九日  
關西大學學長<sup>正四位</sup>法學博士 松本蒸治  
第一號

因に氏は明治三年一月二十日高知縣高岡郡宇  
佐町に生れ、本學卒業後更に東京に出でて研  
鑽を重ね、日露戰後ドイツに遊んでライブチ  
ツヒ大學に學び、歸朝後も世の榮達を度外視  
して一意研學を續け以て今日に至つた篤學の  
士である。

### 學位授與祝賀會

別項所報今回校友武田宣英氏が法學博士の學  
位を授與せられたらつて、その祝賀會が一月  
二十五日午後六時から大阪ホテルに於て開  
かれた。定刻武田氏を始め理事、監事、協議  
員、專任教員の諸氏出席、學長缺席の爲め増  
山專務理事より一同起立の裡に學位記を同氏  
に授與し、終つて祝宴に移る。デザート・コ  
ースに入るや喜多村專務理事は祝賀の意を述  
べて挨拶をなし、武田氏これに對ふるまゝ  
あり、午後八時盛會裡に散會した。尙ほ當日  
の出席者中には本學創立者の一人であり且つ  
武田氏の恩師たる手塚太郎氏の顔も見え一入  
意味深い會合であつた。

### 本學關係國家試驗登第者

本學校友若くは在學生中左記諸氏は 昨年度  
施行の各種國家試験にそれぞれ合格した。  
高等試験司法科合格者

- 大一四專法 本田由雄
- 昭二專法 川見清澄
- 大一四專法 香月 實
- 大一五專法 植田完治
- 昭二專法 黒木 茂
- 大一四專法 小泉要三
- 大一五專法 柴田 治
- 昭二專法 關根進之丞
- 大一五大法 林 徹
- 大一五大法 士井義弘
- 大一五大法 三輪敬三
- 昭二大法 浪江源治
- 大一〇專法 宮阪淺次郎

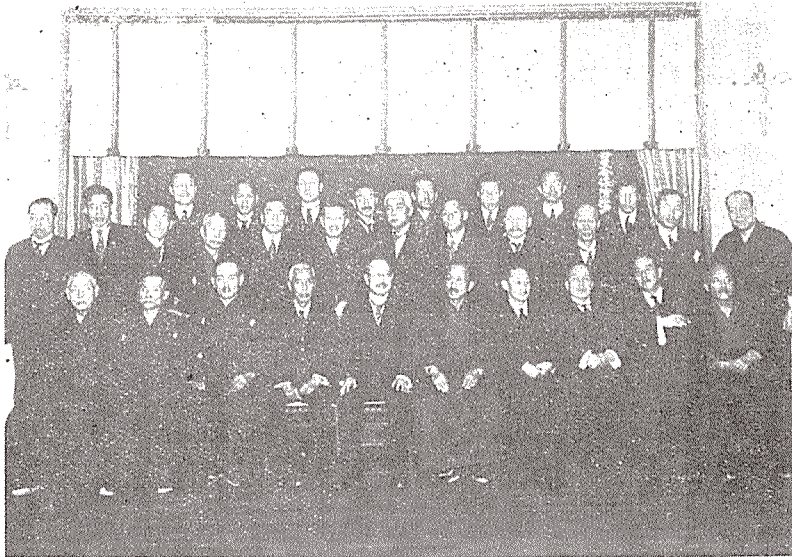
高等試験行政科合格者  
昭二專法 黒田 清  
大正十二年法律第五十二號に據る  
試験合格者

- 明四三專法 友次壽太郎
- 大九專法 狩野一朗
- 大一四專法 安田清治郎
- 大一五專法 藤 崎 峻
- 大一四專法 小泉要三
- 大一專法 菅田清郎
- 大一專法 今野勝久
- 文部省實業教員檢定本試験合格者  
大豫二在學 山口 清
- 尙右高等試験司法科合格者中の川  
見清澄、黒木茂の兩氏は目下法文  
學部法律學科に在學中である。

### 來學年度學生募集

昭和三年度の本學學生を左の通り募集するこ  
ゝに決定した。  
學部各科第一學年  
出願期間—三月一日より四月七日まで

入學試験—四月十日より同十二日まで  
千里山學舎に於て施行  
大學豫科第一學年  
出願期間—二月十五日より四月五日まで  
入學試験—四月七、八の兩日千里山學舎に  
於て施行



學位授與祝賀紀念攝影

### 協議員菅沼豐次郎氏逝去後報

前號所報本學協議員菅沼豐次郎氏の訃に關し  
同氏に數十年來の親交ありし本學專務理事喜  
多村桂一郎氏は、舊臘病臥中にて故人の葬儀  
に會ふること能はざりしを遺憾とし左記の如  
き弔詞を寄せられた。ここに録して以て故人  
を偲ぶよすがとする。

### 弔 辭

維時昭和二年十二月二十七日畏友菅沼豐次  
郎君溘焉として逝く嗚呼哀哉君は豊前中津  
藩士の家に生れ幼にして父を喪ひ賢母に鞠  
育せらる弱冠笄を負ふて東都に出で攻玉社  
に遊び後第一高等學校に入學す次で帝國大  
學英法科に進み明治二十六年七月業を卒ふ  
此間苦學辛酸を嘗むること多年君か他日の  
大成蓋し爰に基すこ謂ふべし此の如きは飽  
食暖衣の徒の體験せざるまゝにして實に  
青年の鑑戒するに足る君大學卒業後日本  
郵船株式會社に入社し海上生活を爲すこと  
一年有餘自ら驥足を伸すの地にあらざるを  
覺り遂に其職を去るに至れり蓋し昔日の實  
業界は極めて幼稚なりしを以て學徒を遇す  
ること頗る冷酷君の如き英才も亦之に堪ゆ  
ること能はざりしためなるべし然れども後  
年幾多の海事事務を處理するに至りしは其  
因を茲に生ぜしものにして此一年餘の海上  
生活は決して徒事に非ざりしなり明治二十  
七年司法界の人となりしは亦亦君か活動の  
天地に非らず同三十年職を辭して大阪に辯

### 專門部各科第一學年

出願期間—二月二十一日より三月三十一日  
まで  
入學試験—四月二日福島學舎に於て施行  
講師神戸三郎氏轉居



護士を開業す日夜拮据奮勵して業務に従事す當時華城の狀師界には老練の名士頗る多く其根柢極めて鞏固なりしに拘らず君此間に處し能く耐忍勉歩一步地盤を開拓し幾何ならずして名聲大に揚り業績漸く進み終に大家の域に達す恂に偉なりと謂ふべし而して此間大阪辯護士會會長に當選するこゝ二同晩年大阪商業會議所特別議員に擧げらる蓋し君が大成は天與の資質に俟つこゝからす雖主として努力勉勵の賜なりと稱すべく後進の指針として仰ぐこゝなるべし君天資英敏にして機智に富む固より學事に専念するの質に非ざれども其應用の才に至りては首肯すべきこゝ甚だ多し且夫辯論明快能く言んご欲するこゝろを盡して餘蘊なし殊に社交は君の長所にして隨時隨處は面應酬の才を發揮す從つて交友極めて多し君座談酣なるこゝき往往辛辣の舌鋒人の肺腑を抉ぐるが如きこゝあり雖之をして不快の感を懐かしむるこゝ稀なり想ふに其談話の抑揚頓挫頗る巧妙なるこゝ共に其心境の玲瓏たる所以なるべし君最も圍棋を好む業務の餘少閑を得れば必ず棋局に面す君が唯一の趣味なり余性耿介間人々を容れず幸に君と交歡するこゝ四十有餘年未だ一たびも争を爲せしこゝなし是君の性行淡如たる所以なり語に曰く君子之交淡如水之宜なる哉今や君を喪ふ悲哉今月二十日君余が事務所を訪ふ閑談半時音容尙ほ耳目に新なり後一二日余俄に病みて臥床す當時君亦病室中の人たりしなり而して彼我之

を知らず忽ちにして君の訃音を耳にす余病床に轉轉し唯徒らに嗚咽涕泣するのみ吁天公無情突如として斯偉材を奪ふ然れども君は既に功成り名遂けたるの人焉んぞ天を怨ん哉君家には貞淑の賢夫人あり又子女に富む嗣子貞一君成業の後直ちに夭折せしは大不幸なりし雖次子武雄君資性俊秀君に酷似す君が家門をして益繁榮ならしむるこゝ疑なし君以て冥すべし余今病床に横臥し往事を追懐して感慨無量爰に蕪辭を口授して君の英靈を弔す尙くは饗よ



(照參報內學讀前)氏郎次豐沼宮故

昭和二年十二月三十日

舊友 喜多村桂一郎頓首

附屬關西甲種商業學校彙報

四方拜賀式舉行 一月一日午前九時より本校講堂に於て四方拜賀式を舉行 垂水主事より一場の訓話があつた。  
 第三學期授業開始 一月九日午前九時より第三學期始業式を行ひ翌十日より各學年共授業を開始した。

劍道大會優勝 本校劍道部は一月二十一日豊中中學主催の下に同校道場に於て開かれた府下中等學校劍道大會に参加し優勝した。  
 ハーモニカ演奏會 一月二十八日午後一時から本校音樂部主催の下に講堂に於てハーモニカ演奏會を催したが頗る盛會であつた。  
 軍事教練查閱 二月一日午前九時より本校校庭に於て現在軍事教練を受けつつある生徒全部は查閱官仁禮中佐の查閱を受けた。  
 紀元節拜賀式舉行 二月十一日午前九時より講堂に於て紀元節拜賀式舉行、職員生徒一同出席の上垂水主事より一場の式辭あり同九時三十分閉式した。

附屬第二商業學校彙報

四方拜賀式舉行 一月一日午前十時より本校講堂に於て四方拜賀式を舉行、職員生徒出席の上垂水主事より一場の訓話があつた。  
 第三期授業開始 一月九日午後五時から講堂に於て第三期始業式を行ひ翌十日より各學年共授業を開始した。  
 敬 論 囑 任 今回左の諸氏を教諭に囑任した。  
 第三學年商業英語科擔任 金澤丑之助  
 同 英 語 科擔任 菊地金次郎  
 同 同 長尾彌三郎  
 紀元節拜賀式舉行 二月十一日午前九時より講堂に於て紀元節拜賀式舉行、職員生徒一同出席、垂水理事一場の式辭を述べて閉式した。

事務長新任

本學に於ける一般事務の統一、連絡を圖るため今回新たに事務長の職を置き、松山藤雄氏を任じてその職に當らしめるこゝになつた。

因に氏は明治三十年に本學の前身たる關西法律學校を卒業し會つて本學の幹事たりし經驗を有する人である。

專務理事就任披露會

二月九日午後五時から市内堂島ビルディング清交社にて昨年就任した喜多村專務理事並びに増山專務理事の就任披露會が催された。定刻左の諸教授、講師出席一同食卓を共にし、デザート、コースに入るや垂水理事の紹介に依り兩專務理事それぞれ就任の挨拶をなし、小泉教授、齋藤講師教員一同を代表して對ふるこゝろあり、歡談數刻午後九時散會した。因に當日の出席者左の通りであつた。

- 入江真太郎、板津直俊、原田鹿太郎、所勇、徳尾俊彦、富田仲次郎、豊岡佐一郎、大立日重虎、和田千一、渡邊寛一、賀米俊一、神宅實須惠、河村信一、加藤金次郎、河盛好藏、香坂次郎、田邊信太郎、辰巳經世、高橋爲一郎、高橋盛孝、坪内士行、中村鄧次郎、中村真之助、上野慎吉、野中敏、野村次夫、藤澤章次郎、藤田俊克、小泉幸治、腰高真雄、齋藤常三郎、坂本憲三、水谷撥一、笹田栗夫、新町徳之、平林治徳、關豐馬、鈴木富太郎、増山忠次、喜多村桂一郎、白川朋吉、山口房五郎、垂水善太郎、灰谷庄右衛門、堀正入、大橋千太郎、中口卯吉、小中正晴、正井敬次郎、木村禎橘、松山藤雄、田川七郎以上諸氏(順序不同)

御挨拶

拜啓陽春の候益御清穆奉慶賀候陳者小生今回關西大學事務長に御採用相願ひ候に就ては向後専心精勵可任宜敷御指導御鞭撻の程御願申上候先は右御挨拶申述度如斯御座候 敬具  
 昭和三年二月

校友各位

松山藤雄



# 校友の面影

▲辯護士 武田宣英氏▼  
法學博士  
明治二十三年關西法律學校出身

世俗の名利を顧みず、十年一日の如く清居の窓前に向つて書を獵り、ひたすらに、學びの業に精進することは羨やみても及ばざる達域の心境である。烏兔忽忽、心算徒らに煩瑣、邯鄲の夢破れて、老來轉た寂寥を覺ゆるは世の常である。靜觀、時と共に芥え、麗澤日と共に加はり、徳識壽と共に重きを爲すは世の稀に見るころ、仰いで龜鑑をなすに足るものである。筆者は、曩に學位論文「日本陪審法論」を提出し、本學の申請に依り、去月十九日文武大臣より法學博士の學位を授與された武田宣英氏にその人を得て欣びの情に堪えないものである。本誌の爲にその感想を請へば、氏は徐ろに左の如く語られた。聲韻極めて温篤、徳風そぞろに對者に迫るものがあつた。

「私は今日迄殆んき獨學で通して來たと言つても良い位でした。政治運動に身を投ずることは立遅れてしまひ勞私が最も愉快に思ひますのは本を讀むと言ふことです。世の中に自分の好む所に隨つて一人書に親しむと言ふ位良い仕事はありません。當境遇が許さぬ點もあつて、私は若い時から專念讀書の境涯に入ることは許されなかつた。故に名ある師の教を請ひ旅から旅へ自分の勉強を續けたのですが、それも働いては書を讀み、稼いでは又勉強すると言ふ方法を執るより外に仕方が

なかつた。獨逸に行つたのも自ら稼いで自費で行きました。つまり私の終生の希望としては單に金儲の爲の勞働や、糊口の爲に働らくことから脱れて、専心本を讀むことが出来る境遇になりたいと思つた。苦學營雪の過去を偲び、特に恩師井上操氏に就て語られたその話に「私が本學の前身關西法律學校の創立者の一人井上操先生の御世話になつたことは非常なものです。私は十七の時土佐から出て來ましたが當時大井健太郎の國事犯事件の裁判長として大阪へ來られた井上先生の名聲は非常に高く學徳共に世に知られてゐましたので是非先生の學僕にして貰はうと思つた私は網島にあつた先生の御宅を再三再四訪問してお願したのです。



武田宣英氏

始はなかなか置いてやらうと言はれなかつたが私が餘り熱心にお願したものですから或日終に「そんなら試験するから來い」と言はれたので早速お伺してお話を聞いてゐる中に、「では自分が役人をしてゐる間は面刺を見やう」と許しが出たので自分は非常に嬉しかつた。その當時先生の言はれるには「今は陳勝吳廣の出る時であつて漢の高祖の出る時ではない」と暗に青年が政治運動に走るのを戒め

られた。これ等が今でも私の腦裏に沁みこんでゐます。さう言ふ具合で井上先生は私には第二の父であり、大阪は第二の故郷、關西大學は母校中の母校であると思はれて、大阪を思ふ時、他所の様に考へられませんか。昨日も千里山學舎を案内されて、その大學としての大いなる理想を如何に如實に實現しつつあるかに吃驚しました。本學の發展を祝し、創立時代の昔を語り、自分が此度關西大學最初の學位

受領者としてその選に與つたのは非常に有難いことでは實は恐縮に思ふ極めて謙讓な態度で語られた。内に溢るる喜びの情を謙虛の徳に蔽ひ「私の論文は甚だ貧弱なものでお辱かしい次第ですが、私の經歷も、古い時代の産物として御助辨願ひたい」とすら述べられたには筆者がかへつて恐縮に覺ゆるばかりであつた。措辭温厚、温順の微笑に不識尊敬の念を禁じ得なかつたことは獨り筆者のみの感想

ではあるまい。左に略歴を紹介して氏の風采を傳へよう。

氏は明治三年一月二十日高知縣高岡郡宇佐町に生れた。同十九年大阪に出で大家齊齊氏設立の泊雲塾に入り、又協立學校に入り専ら普通學英語等を修めた。同時に又本學の前身關西法律學校に入り、井上操、小倉久、鶴見守義、手塚太郎、水上長次郎諸氏、特に井上操氏の訓陶を受けて法律學を學び、明治二十三年卒業と同時に東京に出で、現今の法政大學の前身和佛法律學校に入つた。同校に於て富井政章、龜山定義、河村護三郎、梅謙次郎、松室致氏等に就きて更に法律學を學び、明治二十五年同校卒業に際しては佛學會會長閑院宮殿下より成績拔群の故を以て賞を授けられた次いで辯護士となり、尙研究に従ひ、日露戰役後間もなく獨逸に遊び、ライプツヒ大學に入り、ピンディング、ゾーム、ヴァッハ等の諸氏に就いて一九〇七年より一九〇九年に至る間専ら法學を修めるころがあつた。是より先東京に於て、又獨逸に於て、ヴェンデル、シュトイデル、ヤゴ等の諸氏に獨逸語を學んだ。氏は常に法學の研鑽に努め、茲數年來は法廷に立つことすら稀であつた。多年の蘊蓄研琢の効表はれて今日學位を受け、昔日の苦心も幾分報はれたことは誠に同慶の念に堪えないことである。筆者が不文唯氏の玉の如き人格を傷げざるやを切に憂へつて擱筆するに當り、氏の自愛加餐を切に祈り、邦家後學の爲に更に一層の勞を惜まれざらむことを希ふものである。



# 校友彙報

## 關大甲子會懇親會

舊臘十一月二十七日計理士志望者懇談會に共  
に關大甲子會が堂島ビル鶴家食堂に於て開催  
された。久し振りで氣持の良い會合であつた  
宴酣になるに會員各自の經驗談、趣味談、珍  
談、奇談が續出して時の遷るを忘れしめた。  
午後十一時和氣霽靄裡に散會した。同會では  
當日左の申合せをした。

一、校友である限り卒業年次年齢の如何を論ぜず  
大阪近郊在住者諸氏の入會を希望する

二、入會費及平常會費等は一切不用に懇親會等  
の節は其出席者實費を分擔すること

三、大阪近郊在住校友の社交俱樂部的になつたい  
と即ち何時にても友人等と勝手に出席し得ること

四、會事務所は當分の間堂ビル二階二〇一號室谷  
岡江村計理事務所を使用すること

(尙當日出席者は左の通り(次第不同))

在里三芳、千田芳市、桑原正男、田守格、久田一  
榮、若山資雄、中島一郎、松岡爲吉、廣實郁雄、  
江村至身、谷岡登の諸氏

## 關西大學阪神間校友 學友俱樂部創立總會

今回關西に於て其稱を稱へる我が關西大學校  
友並に學友の大多數を擁する阪神間に於て未  
だ何等の相互的機關を有せざりしを甚だ遺憾  
とし茲に校友與田正雄福井清吉の兩氏及學友  
福本稔、原田博の兩君等相計り百方盡瘁する  
ところあり、今度關西大學阪神間校友學友俱

千里山學報 第五十六號

樂部の組織を見、過ぐる一月六日午後五時よ  
り神戸市加納町三丁目ノ出食堂樓上に於て  
その創立總會を開催した。同會のモットーに  
する所は阪神間在住の本學校校友學友相集ひ、  
親睦並に相互裨益を目的とし、各自治精神を  
涵養し以て人格の向上ならびに母校の發展を  
計るを期するものである。尙當日の出席者は  
教授岩崎卯一氏を初め、來賓、校友學友多數  
あり、先づ定刻に至り校友與田正雄氏の開會  
の挨拶に次で岩崎教授の祝辭に代はる、約一  
時間に互つての母校發展並に本學野球部の沿  
革に就いての講演があつた。來賓總代として  
會計士三宅仁之助氏の挨拶終つて後、懇親會  
に移つた。デザートコースに入つて會員各自  
の自己紹介あり、大阪柴山校友、南學友兩氏  
よりの祝電披露あり、宴酣となり歡談湧くが  
如く、最後に關西大學學歌及萬歳を高唱し、  
同日十一時福本稔氏の閉會の辭に依つて散會  
した。(依校友山家作藏氏報)

尙同俱樂部事務所所在及び當日出席者は左の  
通りであつた。

事務所―神戸市外西灘村畑原與田會計事務所  
内

出席者―岩崎卯一、古川傳二、橋本繁藏、竹  
西輝雄、河原政次、松岡爲吉、原敬一、福井  
清吉、水守隆平、田原富藏、鹿野峯敏、福本  
稔、原田博、岡本和三郎、守仁季雄、大垣義  
信、鳥羽秀雄、與田正雄、山家作造、熊澤三  
雄、椿周輔、池内外峯(三十二名、順序不同)  
尙同會會則は左記の通りである

關西大學阪神間校友學友俱樂部會則

第一條 本會は關西大學阪神間校友學友俱樂部ト  
稱ス

第二條 本會ノ事務所ヲ神戸市外西灘村畑原二一

一番地ニ置ク(電話三宮三三二六番)

第三條 本會會員ハ阪神間在住者ニシテ左ノ各項  
ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一、關西大學卒業者 二、關西大學在學者 三  
關西大學ニ營テ在學セシモノ、但シ本理事會ニ  
於テ推薦シタル者ニ限ル

第四條 本會ハ會員相互ノ親睦ヲ計リ智識ノ交換  
自治精神ヲ涵養シ以テ學名ノ發揚ヲ計ルヲ目的



東京校友會紀念寄書

ス  
四、顧問ハ會務ヲ相談シ意見ヲ述ブルノトス  
第七條 本會ハ春秋二回總會ヲ開キ經費ハ會員ノ  
負擔トス

## 校友動靜

森永清晃氏(大一四專經) 今般岡山縣連島  
高等女學校教諭兼校長事務取扱に新任され  
た

中村國夫氏(大四法) 從來奈良市北市  
町に居住大阪電氣軌道株式會社に就職中の  
所昨年七月以來熊本縣天草郡一町田村旭炭  
礦に轉勤された。

阿澄一次氏(大八商) 過般三菱銀行よ  
り大軌電鐵會計課へ轉任された。

宮阪淺次郎氏(大一〇法) 先般辯護士試験  
に合格された。

法覺 稔氏(大四法) 從來合名會社安  
田正商店に在動中の氏は舊臘十二月より店  
主諒解の上圓滿に退店北區末廣町三番地に  
て小又屋商店を經營し専ら一般工業藥品販  
賣業に従事することとなつた。

西山正雄氏(大一三法) 去る十二月十六  
日長野町楠館に於て内外商工株式會社社長  
宇野亮一氏二女露子氏と華燭の典を舉げら  
れた。

德重又次郎氏(大八法) 臺灣製糖株式會  
社より過般梅田阪神急行電鐵株式會社に轉  
勤された。

勝井喜藏氏(明二九法) 濱田區裁判所判  
事より今回松山區裁判所監督判事に榮轉

水野義恕氏(推) 岡山縣高梁區裁  
判所判事在任中今回松山地方裁判所判事に  
榮轉

第五條 本會ニハ左ノ役員ヲ置ク  
一、總理事一名 二、理事七名以内 三、幹事  
若干名 四、評議員若干名 五、顧問三名  
第六條 役員ハ總會ニ於テ會員中ヨリ推舉ス  
一、總理事ハ會務ヲ總理シ理事ハ之ヲ補任ス  
二、幹事ハ理事ヲ補佐シ會務ヲ處理ス  
三、評議員ハ理事ノ諮問ニ應ジ重要會議ヲ評議

高野時治氏(大 三 法) 朝鮮光州地北方  
院金州支廳在勤中の氏は今般退官郷里下關  
に歸住。

田淵正照氏(大 一四 專法) 今般計理士に登  
録された。

新居 寛氏(大 三 法) 今般大福海上火  
災保險會社名古屋支所閉鎖の爲、東京火災  
保險株式會社名古屋支所に入社された。

林 經 夫氏(明 四 四 法) 今般神戸市に設  
立の兵庫大同信託株式會社に入社。

校友住所移動

森 永 清 晃(大 一四 專經) 岡山縣淺口郡五島町吉浦  
原口 謨(大 一五 專法) 名古屋市南區熱田東町玉  
ノ井八三

中村 國 夫(大 四 法) 熊本縣天草郡一町田村旭  
炭礦

米倉 惣 一(明 四 二 法) 京都府紀伊郡向島村大字  
葭島新田小字矢倉島

樋口 哲 四 郎(大 二 法) 東區京橋二丁目安田銀行  
八軒屋支店

法 覺 稔(大 四 法) 北區末廣町三小又屋商店  
入江 楠 司(明 三 〇 法) 東京府荏原郡玉川村用賀  
一五八四

船 曳 俊 雄(昭 二 專商) 東淀川區十三西ノ町九二  
森 貞 次(大 一四 專法) 兵庫縣加東郡福田村小學

山 本 文 助(大 一三 法) 住吉區殿辻町五二  
森 寺 美 一(明 三 九 法) 東京市外岩淵町赤羽六〇

大 塚 俊 勝(大 一五 專法) 兵庫縣武庫郡西灘村上野  
宇柿ノ木三六九

中 塚 芳 郎(大 一五 專法) 西區幸町四丁目二  
安藤 藤 綱(大 一 一 法) 東京市麴町區平河町四丁  
目一一

加 義 博(昭 二 專法) 兵庫縣川邊郡小田村字潮

小笠原 延 彌(大 八 經) 江東大寺三〇梶岡方  
C/o Nanyo Soko  
Kaisha, Ltd., Semarang,  
Java.

井 上 巧(大 一三 經) 神戸市下山手通六神戸稅  
務署

松 本 孝(大 一四 專商) 東成區中濱町二二二  
松 永 三 郎(大 一〇 專商) 北區部島車庫一丁東あづ  
ま食堂

勝 井 喜 藏(明 二 九 法) 愛媛縣松山市玉川町  
高野 時 治(大 三 法) 下關市外神田

大 橋 義 策(大 一四 專經) 天王寺區上ノ宮町六六  
新 猛 夫(大 一四 專法) 西成區玉出町千本通五丁  
目二小澤方

椿 了(大 九 經) 福岡縣八幡市枝光大川町  
三丁目三菱社宅

下 村 宗 二(大 九 經) 南區北桃谷町八  
刈 谷 明 忠(大 一三 法) 住吉區天王寺町一七六四  
柴田方

校友逝去

昭和二年十月二十八日  
兵庫縣武庫郡本庄村ノ内  
青木村四四五  
中 川 與 之 助 氏  
明治三十七年法律學科卒業

昭和三年一月二十一日  
福岡市大字鳥飼字後四六一  
中 江 村 治 郎 氏  
明治四十一年經濟學科卒業

昭和三年一月八日  
岡崎市康生町六九九  
辯護士 倉 橋 德 太 郎 氏  
大正六年法律學科卒業

右訃音に接し謹んで弔意を表す

學生彙報

千里山馬術部報

昭和二年十月十五日、東北帝大主催、第二師  
團後援の第四回東北乘馬大會に岡島主將引率  
春元、樋口、大谷、淺本、上田、田中の諸君  
出場、當日成績左の通りであつた。

卷乘競馬、一等樋口、二等岡島、三等春元  
此の競技は同大會劈頭の勝負であつたが本學  
選手に依つて一、二、三等を占め頓に氣勢を  
揚げたが大谷君の武運拙なく、田中、上田兩  
君の奮闘空しく團隊競技に六等さなつた。尙  
ほ同大會の歸路東京に立寄神宮競技の豫選に  
出場し岡島、樋口、大谷の三君入選した。

同十一月三日、第四回明治神宮馬術競技大會  
へ織田マネージャー引率の下に岡島、樋口、大  
谷の諸君を送る。當日日本學大谷君は高障礙飛  
越競技豫選に於て障門三十五個を連續飛越し  
斷然番外優勝者さなつた。當日斡旋された大  
阪乘馬會長柳氏並びに慶大馬術部諸君に深く  
感謝の意を表する次第である。

同十二月四日、京都學生乘馬聯盟主催京都乘  
馬大會へ岡島主將引率の下に春元、大谷、淺  
本、小寺、田中、松本の諸君を送る。此の日  
春元卷乘競技に於て第二等淺本、障門飛越競  
技に於て第一等小寺、卷乘競技に於て第二等  
にそれぞれ入賞し大いに本學馬術部の意氣を  
揚げた。

同十一月二十八日、營舎を離れた五頭の軍馬  
と柳氏の手より一頭の駿馬とが千里山學舎に  
來た。記念すべき日である。

馬術部部則

昭和三年一月七日、香櫛園乘馬俱樂部より津  
島馬一頭を譲渡された。その馬はかつて高貴  
の人の若かりし時乗用されたもので、スベ  
イン常歩、障門飛越等を調教されて居るもの  
である。本學馬術部厩舎では今合計七頭の駒が  
繋蓄されてゐる。部員は千里山學舎に學ぶ學  
生諸君の乗用を希望し、馬事思想を普及した  
い意志をもつてゐるが、之が飼養管理の維持  
費の都合上、騎士會なるものを設けて、部員  
にして騎士會會員のみ乗馬し得ることにした  
終りに馬術部則及騎士會會則を左に掲げ  
る。

- 一、本部は關西大學千里山學友會馬術部と稱し事  
務所を大阪府三島郡吹田千里山關西大學内に置  
く
- 一、本部は品性の陶冶、體育獎勵、乘馬趣味の養  
成並びに其の普及を目的とす
- 一、第二條の目的を達成するために本部は左の事  
業を行ふ
- (イ) 騎士會の設置
- (ロ) 關西學生乘馬聯盟加盟
- (ハ) 其の他

- 一、本部は第二條の趣旨に賛成する關西大學學部  
及豫科學生を以て組織し技術優秀なる者を以て  
選手班を組織す
- 一、本部には左の役員を置く
- 部長一名、委員二名、マネージャー一名、主將  
一名、副主將一名
- 部長は本部を總理す
- マネージャーは本部の事業を綜理し部長差支あ  
るさきは之に代る
- 主將は選手及部員を指揮し他の役員はマネー  
ジャー主將を補佐して本部諸般の事項を處理す



部長は差支なき限り變更せざるものとし他の役員は毎學年始め總會に於て改選するものとし  
一、本部の經費は部費によりて支辨す、會計事務は委員之に當るものとし  
一、總會は毎學年始めに部長之を召集す  
總會は部員全部並びに騎士會役員により組織せらる

一、本規約は總會に於て全會員の半数以上の出席あり其三分の二以上の賛成を俟ちて變更することを得  
一、部員にして本部の體面を汚損すべき行爲ありたるときは部長之を除名することあるべし

### 千里山騎士會會則

一、本會は關西大學千里山學友會馬術部千里山騎士會と稱し事務所を關西大學千里山學友會馬術部内に置關西大學之が管理權を有するものとし  
一、本會は正會員普通會員を以て組織す正會員は關西大學千里山學友會馬術部員を以て普通會員は關西大學千里山學友會馬術部の趣旨に賛成する一般愛馬家紳士淑女にして關西大學關係者並びに正會員の紹介を有する者を以て組織す  
一、正會員は維持金として月額五圓、入會金六圓普通會員は月額拾圓、入會金貳拾圓とす  
一、本會は左の役員を置く  
關西大學千里山學友會馬術部の役員之を兼任するものとし、特に名譽顧問、顧問若干名及會計二名を置く  
名譽顧問及顧問は關西大學千里山學友會馬術部に特に功勞ありたる者にして其の總會の決議により之を推戴するものとし其の任期は永續的のものとし  
會計事務は本學會計掛二名之を掌る  
任期は差支なき限り永續的のものとし  
一、本會の經費は部費の一部及維持金を以て支辨し其の會計事務は本會の會計掛主として之に當

るものとし  
一、會員にして本會の體面を汚損し或は維持金を滯納したるときは之を除名することあるべし

### 關西大學岡山縣人會 郷土訪問文化講演會

本學學生を以て組織せる岡山縣人會は本學年度新學期初頭に當り、經三山室茂雄君並に商三尾崎君外數名發起人となり中絶せる縣人會の再興を計り、これが役員を定め縣人會の隆盛に努力しつつあつたが、その事業の一部遂行を期する爲、在岡在阪の本學先輩並に在阪岡山縣人の援助を請ひ去る一月六日午後六時より郷土訪問文化講演會を岡山市深低小學校講堂に於て同市山陽新報社後援の下に開催嚴寒の最中に拘らず聽衆堂に溢れ極めて盛會であつた。當夜午後九時半記念撮影をなし盛會裡に閉會した。因に當日のプログラムは左の通りであつた。

#### プログラム

- 一、開會之辭 法科 阪東宗哉君
- 一、新興日本の懺み 經濟科 片山全男君
- 一、懷疑者の叫び 法科 八木正一君
- 一、知事公選を論ず 文科 春名平三君
- 一、人生・愛・自由 法科 片岡觀亮君
- 一、失 題 法科 川野勳平君
- 一、農村問題の經濟的考察 經濟科 長谷正事君
- 一、惱める民衆に送るの言葉 法科 山村利幸平君
- 一、失 題 校友 山室茂雄君
- 一、郷土を訪れて何を語る 經濟科 波多野陸助君
- 一、失 題 校友 佐藤英敏君
- 一、司會者挨拶 司會者 高木益郎君
- 一、失 題 講師

一、政治に冷酷なる國民の面影を見よ 法科 北村知己君  
一、失 題 校友 有岡幹三郎君  
一、勤王が佐幕が政界革新の行者出でよ 商科 尾崎信夫君

一、失 題 岡山縣會議長 玉野知義君  
一、司法權の獨立 本會顧問 角南美貴君  
一、閉會之辭

### 千里山山岳部報

一月二十九日早朝より神戸背山へ有志一同出掛けた。この日天候は定まらなかつたが一同は頗る元氣であつた。午前九時阪急六甲停留所に集合、大立目先生の先達で先づ六甲登山口より六甲に向つた。道中小雨に交る粉雪を面に受けつつ雄敢に頂上を極めた。一行はやがて六甲園食堂に這入りストーブの火に温まりながらコーヒを飲んだ。食堂を後にして、三國岩を右に、左へ左へコースを取り、再度山頂を通過して猩猩池を右に眺め、徳川道を経て、二十渡を過ぎ、更に右へコースをこる。遂に午後一時半市ヶ原へ着いた。茲に原田先生の別荘がある。先生と御一緒にその御心盡しの神戸牛の御馳走になる。やがて學生は輪投げに興じ、先生方は話に時間を過ぎられたが三時に垂んさるので盡きぬ名残りを残し、半田を經船山を通り諏訪山に下り、神戸の町、兵庫の海を一望の下に眺め思はず快哉を叫んだ。山麓の諏訪温泉に快より一浴を済し中山手の獨逸喫茶店フロインドリッブに大立目部長と共に一服、午後六時阪急神戸終點にて解散した。當日の行程約四里餘、此機會に原田先生の御厚意を深く謝する。

一行氏名、大立目講師、河村教授、若松先生、木村、岡田、廣田の諸君(依廣田君報)

### 第三回本學學生有志擬國會

本學學生有志模擬帝國議會は客年十月中旬頃開催される豫定であつたが、都合により開會の運びに至らなかつた。經濟科三年山室茂雄君等の奔走により、校友廣瀬徳藏氏その他の賛成を得たので、大阪朝報社長岡島松次郎氏の後援を求め、閣僚の選定と同時に、それぞれ承諾を得て、組閣を了し、いよいよ舊臘十二月十八日午後一時より大阪府立實業會館に於て第三回模擬帝國議會を開催することとなつた。

當日開會前既に聽衆は會場を埋め山室君の簡單なる挨拶の後開會、政府各政黨より提出の議案を討議し、かくて時を經るに従ひ益熱を加へ午後八時に至り反對黨により内閣不信任案の提出を見、政府は之に對し議會解散を命じ、極めて盛會裡に閉會した。

尙當日の閣僚及代議士(本學學生有志)並に討議したる議案は左記の通りであつた。  
政府、廣瀬徳藏氏、内藤正剛氏、白川朋吉氏、岡島松次郎氏、一松定吉氏、筒井民次郎氏外十餘名。  
政黨、自由黨 政府黨 山室茂雄、灘龜藏、谷日新太郎、大熊隆、眞鍋謙一外二十名  
急進黨(反對黨) 正井善三、中村太輔、戸川一馬、白髮茂、織田勝外十數名  
労働黨(中立) 河野政平、村田重吉、原口實長、谷正事外數名  
議案、公娼廢止に關する法律案(自由黨)、斷髮禁止に關する法律案(急進黨)、労働組合法案(労働黨)、その他各黨建議案並に政府案を討議した。



# 土地經濟論

リチャード・ティ・イリ

經濟學の新しい部門なる土地經濟學は、總ての科學の發達を誘導する所の専門的なる一の產物である。此の土地經濟學は新しいものではあるが而しそれは既に多少の部門に分たれて居る。此の分たれたる部門に就て一層明瞭なる二つの區分を舉ぐれば一つは農業土地經濟學であり他は工業土地經濟學である。土地經濟學がかくまで後れて成熟した事は實に意外の事實である。著者の知れる範圍内に於てはずつと以前に勞働經濟學中に銀行業租稅利潤資本並に利子等が與へられたると同様に該問題が土地經濟學なる題の下に廣く大學の課程の中に入れられたのは一九一九年が最初のものであると思ふ。

## 經濟學中に於ける土地の取扱

過去に於ける經濟學の取扱に於て、土地を經濟概念として即ち社會の收入を分與する條件として取扱つてゐるものは殆んど見えない。而して土地は經濟學者に於ては生産に於ける最初の要素の一つとして見られて來て居る何故かくまで多大の注意が勞働と資本、尙最近に於ては Entrepreneur の經營又は役割に對して拂はれなければならぬのであるか、此の問題に答へる事は必ずしも容易の業ではないが此處では只地代論特に Ricardo に依つて提稱されたる地代論に多大の責任がある事を示しておく。此地代論は時時其の中から逃れる事が非常に困難である所の一つの迷執に等しいと思はれるものを經濟學者の心の中に植えつけて居る。而して此の地代論は地代な

るものが何か特殊として極單純なるものの如く説明して居る。該地代論は總ての土地を、力を提供する收入とは關係なき又は異つたる單一なる要素としてのみ見て居る。土地の種の等級その等級の特徴に關し又はそれ等の種の問題に關して即ちそれ等の利用に對する政策に關する議論は一つもない。Ricardo の地代論が少くとも後れたる土地經濟學發展の一部分の説明であるといふ此の臆説に對する一つの立證が此の Ricardo 地代論の影響の餘りに多からざりし獨逸に於て土地なるものを生産に於ける一要素として一層注意を拂つたといふ事實に見る事が出来るかも知れぬいや少くとも土地の分類の初に於て獨逸の經濟學說中に見られて居る。

## 土地概念の錯綜

土地が恰も一つの物であり、一單位であり或は又、全く特殊な性質の收入を生産する物であるかの如くに考へられる限りは土地經濟學の發展は期す事が出来ない。而し若しも吾人が土地なる言葉の意味に經濟學者の謂ふが如くにそれが經濟的意味を有する範圍に於ては自然の力であるといふ事を再び回想するならばそれ等の力の總てを一つの單なる經濟學上の範疇又は階級に屬せしめる事は少く不合理の様に思はれる。自然の力は實に多くの種類に分ち得る。そして我々は多くの科學的又は實際的の價値を有する之等總ての力を何と呼ぶ事が出来るのであらうか、眞實價値を有する或種のものであるといふ事は確かに出来る。而し吾人が土地を區別し得ざる全體として見る限りはそれはより一層科學的な又實際的なものたる事は出来ない。

我々は土地に關する通常一般の議論の或もの呼び起して此の陳述を試験する事が出来る。公的對私的の所有權が非常に論争されて居る。而し吾人の見る所では如何なる見地よりするも土地が全體として個人によつて所有されるべきものである、或は又それは公的に所有されるべきものであるといふ事はいささか滑稽であり了解に苦しむ所である。吾人は先づ第一に如何なる種類の土地の事に就て論じてゐるかを知らねばならぬ。實際都市の街道や田舎の大道が一般に公的に所有され、而して私的に所有されてゐる道路、それが通行税を取立てる様なものは必ずしも常にではないが一般に時代錯誤であるといふ事に凡ての人人が賛同する。専門家の大部分は森林が或る公共團體又は國家的又は地方的なる政治團體によつて所有されるべきものであるといふ議論に賛成して居る。勿論例ひ重要な場所と雖も亦私的に所有されるべきものであるといふ事を認めては居るけれども概して上述の意見も贊同してゐるのである。而し地球の表面の過半を掩ふてゐるあの海水に對しては世人はそれが私的の所有に屬するものなるか將又公的の所有に屬すべきものなるかの觀念を度外視し海水は吾人が日常呼吸してゐる空氣と同じく自由物であり一般共通の所有者なき財であるとの考へを以て居る。又他方に於ては世の經驗の事自然は私的の所有に屬すべきものは壓倒的に單に農業地のみとされてゐる。此の如くして土地利用に於ては所有權の如く單なる一問題に限らず悉く異つた種類の土地を考へないで満足に取扱はれる事が出来る。吾人が聞いてゐる他の論は、土地は使用されねばならぬといふ事である。そして土地を使

用にまで持ち來らす爲に沒收の目的から土地に課税する様に或る人によつて提案されてゐるといふ事を聞いてゐる。而して吾人は或種の土地はあまりに早く使用にまで持ち來されてゐるといふ事を知つてゐる、そして特に一種の土地即ち私的に所有されてゐる森林地に關しては事實である。専門家は共通に北米合衆國の租稅は森林地をあまりに早く使用にまで持ち來らしてゐる。そして是は保守の主義に反するといふ事に意見が一致してゐる。而し吾人は此の議論を進めて繼續して行かない。讀者は土地の如何なる科學的な又は實際的な取扱に於てもその最初の第一歩の一つは分類であるといふ事を示してゐる多くの例を見る事が出来るであらう。

## 土地經濟學に於ける獨特な所有の觀念

多くの科學並びに技術が土地を取扱つてゐる。例へば地質學、農業、又は或種の見界よりすれば工學、造庭術又は建築學すらも土地を取扱ふ。土地經濟學に對する分野を指示するものは何であるか、それは即ち所有及價値の概念である。他の如何なるものよりも是等二つのものはよりよく土地に關する經濟學的研究を土地を取扱つてゐる他の科學及技術から區別する。所有と價値とは土地經濟學の分野を示し農業に於けるその生産力即ちその地質學的満足と組織とに關して土地を取扱つてゐる他の科學とを區別する。所有の關係を理解せしむるに必要な所有の觀念を顯然と把握して見やう。大體に於て經濟學は人類の交渉關係の科學である。故に經濟學の重大なる區分の一たる土地經濟學も



さうである。此の土地經濟學も矢張り人類の交渉關係の科學たる理由は該科學の中で取扱はれてゐる題目を考へて見れば明になる。今その二三のものを列舉せば都會及田舎に於ける借地土地の價値、地租、公的所有權、牧場社會所有權、保存、所有地、建築物の高さ、都市人口の密集等である。

### 土地經濟學の定義

上述する所に依つて、吾人は今土地經濟學は如何なるものであるかの定義に進むべき用意が出来てゐる。即ち土地經濟學の廣い一般的定義として次の言葉を提供する。即ち「土地經濟學とは經濟的概念としての土地及び所有としての土地の利用から成長發達する所の經濟關係に關する理論的應用的な經濟學のその分野である」(Land Economics is that division of Economics, theoretical and applied, which is concerned with the land as an economic concept and with the economic relations which grow out of the utilization of land as property.)

古き經濟學者は屢科學を技術を區別した。此の區別は現今一般に役立たぬものとはなつてゐるが、而も此の區別は土地經濟學の適當な範圍の充分な觀念を得る爲には役立つものである。科學としては土地經濟學はそれ自身の爲に眞理を求む。そは人類交渉關係に於ける土地所有權に關する現在の事實を了解し過去に於けるその成長發達を説明し且つ現在の發展の傾向を發見するを目的とし、又技術

としては土地經濟學は特殊の場所及び時に於ける建設的な土地政策を組立つるを目的とするものである。

總ての社會科學は増大しつつある複雑即ち Herbert Spencer の弟子達が喜んで承認したいと思つてゐる言葉である所の分化並びに結合によつて特徴づけられてゐる進化の結果である。土地經濟學に於て吾人が取扱つてゐる題目の多くは過去に於て論議されてゐる。そして彼等の中の或ものは吾人が土地經濟學といふ事を聞く前に細密に議論された所のものである。又吾人が經濟學を社會科學の一部門として認める以前に經濟問題に關して多くの議論が戦はされたのである。即ち Adam Smith より二千年も以前に Aristotle が經濟觀念を現今ですらも教訓となるが如き方法を以て取扱つてゐる。土地經濟學者が爲した所ものは經濟概念としての土地に關する多くの問題の離散せる議論を集めそれ等を他の經濟議論より分ちそして此の如く一つの分たれたる經濟部門を形成した事である。

科學とは何であるかの問題は屢起り、そして現在に於て土地經濟學の科學としての可能性に關して多くの人が懷疑的である事は疑ふ餘地もない。故に著者が著者の論旨を進めて行く事は何等差支へない事である。著者にまつては科學とは知識の特殊な分野によつて決定された或限界制限を持てる一般化されたる知識を意味する。そは一つの分たれたる知識の部門として取扱はれる事の可能な様なかかる種類の現象並びに原因を取扱ふ所のものである。而して是等の現象並びに原因は知識の一部門を構成する重要さを持つるものでなければならぬ。吾人は今一打或は二打

の小さい現象の團體を綜合して其等の原因を考へて見るに若しも是等のものが興味あり且つ重要なものであつても知識の原野は分たれたる取扱に對してはあまりに僅少なものである。經濟學に於ては吾人は經濟學の見地に於ける特殊の種類の間交渉關係を取扱ふ。

此等の交渉關係は増大し而して多くの異なる種類の是等の親族關係の或ものは最初は或は分たれたる部門を構成するには實際あまりに少ないかも知れぬが彼等は相對的に又は絕對的に増加しかくして一つの分たれたる知識の部門に達するのである。例へば農業の例を採つて見るに自給の時代に於ては此の交渉關係なるものは殆んごなかつた、さて吾人は今商業化されたる農業の時代に住んでゐる。そして此の交渉關係なるものは多種多様である。又都市の土地と他の土地とに關しても多様の交渉關係が存してゐる事を知つてゐる。

約三年前に法定裁判官 (Chancellor) たる David Starr Jordan によつてなされた演説の中に次の言葉がある。科學とは試験され且つ整理されたる人間の經驗である "Science is human experiences tested and set in order" 是は著者が表示したる科學の觀念と全く同一である。法定裁判官たる Jordan は尙一層科學は偉大なる目的を持つてゐる、そは有益倫理の基礎及び人間精神の發達であるといつてゐる。

土地經濟學はこれ等の試金石に邂逅する、そは土地を利用するに當つて我我を助ける案内者として最も有用である。そは倫理的行動の基礎を定むるに當つて我我を助けそしてその種種の分派は人間精神を訓練するあらゆる機會を提供する。又そは吾人が持つ最善の力を要求するものである。

科學は新しい領土を勝ち得、その範圍は絶えず擴張して居る。法律や醫藥は多くの實例を提供し今や土地經濟學が成立するに至つた吾吾は斯くの如くにして科學の實質を知り得るのである。若しも土地經濟學が科學となりつつあるならば恰度法律や醫藥を取扱ふべきプロフエッションがある如くに土地を取扱ふべきプロフエッションを發達させねばならぬ Western Reserve University の名譽總長なる Dr. Charles F. Thwing はプロフエッションの永久的な卓出せる特徴を指示して次の五つを擧げてゐる。即ち

- (一) 蓄財は一つの條件として見、目的として見らるべきではない事 (Money making is regarded as a condition, not as an aim.)
- (二) 多人數間に於て兄弟愛の意識を持つ事 (Sense of brotherhood among the members.)
- (三) 社會奉仕 (Public service.)
- (四) 就職に關して或標準を設ける事 (The possession of certain standards for entrance.)
- (五) 職業に關する多くの書物を設置せる事 (A body of literature concerning the profession) である。不動産ビジネスは是等五つの試金石に會ひ漸次ビジネスからプロフエッションになりつつある。而して不動産をビジネスとしてゐる人人の立派なる者は皆此等の試金石に會ひ漸次プロフエッションになりつつありプロフエッションに關する書籍の数は是又漸次その數を増してゐる。

さて我我は科學としての土地經濟學に就て論じて來た、今我我はその進化の過程に於て土地の異なる種類の分たれたる取扱に於て見



### コンラッド小話

られる様な新しい原野の専門化及び分化を通じての發達を見やう。その中で最も重要なものは都市の土地である。都市土地經濟は都市化、場所、市の建造物及將來都市土地利用の特殊の特徴、計畫及び地帯を定むる事を含める都市土地利用の公的管理、都市土地の小作地及借地、租税並びに評價の原因を生ぜしむるが如き題目を含む。我が今迄に一度も都市土地經濟の組織的な議論をしなかつたのは聊か奇異の感がある。經濟學者は一般に土地を農業地のみに限つてゐるからして吾人が土地經濟學といふ言葉を聞く時には我我は農業地に就て話してゐるのであると思ひ勝ちである。

山林經濟は凡て既に論議されてゐる、そしてそれは森林地の専門家によつて立證され且つそれが賢明なる利用は困難なものであるとせられる。

理論並びに實際方面に於て種種の區分がなされるに従つて、土地の種類も漸次増してゐる故に分化は土地政策の如何なる議論に於ても必要である。而しそれは立場によつて種類を異にする。例へば利用の見地からすれば土地は廣く農業地、森林地、鑛山地、都市地及保養地又水源等に分たれる事が出来る。(未完)

— A・Y 生譯 —

譯者附記 本稿はアメリカの經濟學者 J. B. Clark が昨年生誕第八十年の賀に達したるを記念する爲め、著名の經濟學者が各其専門に互る研究を寄稿して成つた一書 "Economic Essays" 中の一論文 Land Economics by Richard T. Ely の翻譯である。土地に關する經濟上の論議の多い近時、アメリカに於ける大家の同問題に對する意見をうかがふことの徒爾ならざるを思つて拙い筆を執つたのであるが、譯者の無能のため徒らに原著書の意を誤り傳へんことを恐れる次第である。

十九世紀以後の英文學史上に不滅の足跡を印した巨匠の中に、私はジョセフ・コンラッドを除外し得ない。數奇にして波瀾に富むその經歷を、特異な性格によつて綾なされた作品の獨自性、深刻且つ極めて洞察力に富むた彼の悲劇的人生觀は、然るして彼が他作家とを區別する。批評家中には彼が他國生れであるにも不拘、極めて好妙に英文で小説を書く戯曲を物する言ふ點のみで驚異に値する言説くものもあるが、衆評は、彼をトーマス・ハーディーに次ぐ(或は同等の)位置に觀てゐることは何人にも異論のないところであらうそのハーディーも最近(一九二八・一・二一)隱栖の地ウエセックスに逝いた。バーナード・ショー、キップリング既に老い、十九世紀英文壇の巨星も残り少く、最早その決算期も見ても大過あるまい、舞臺はこれから生れむとする若しい時代の輝やきに恵まれた作家に明け渡されんとする時、少くも古典として後の世に遺るべき作品を有する、逝ける時代の巨星の面影を偲ぶことは意味のないことではあるまい。

### 二

ジョセフ・コンラッド (Joseph Conrad) は英稱で委しく言へばテオドル・ヨゼフ・コンラッド・コルツェニオフスキイ (Teodor Joseph Konrad Korzeniowski) である。彼の兩親はポーランド人で彼は一八五七年十二月六日にウクライナで生れた。同じ一八五七年にはジョ

ー・ムーアアミジョン・デヴィットスンが生れてゐる。バーナード・ショウはその前年に生れ、二年後にコナン・ドイル、八年後の一八六五年にはラドヤード・キップリング、その翌年には、エッチ・デー・ウエルズが生れた。

一八六一年に、即ち彼が四歳の時、父に連れられてワルソーに往つたが、ポーランド叛亂の關係で、ボルグダに追放され、一八六五年に母の死後、五年振りて故郷のウクライナに歸つて來た。父は彼をセント・アンの高等學校に入學させたが、彼は英國の海商船に乗組まうと言ふ熱求黙し難く、遂に一八七八年の五月に英國のロウズトフトに渡航したがその時彼は一語も英語を知らなかつた。それより一八九四年に至る十數年の間、彼は常に大洋を寢所とし、渺渺たる波に果てなき神祕の啓示に満ち充ちた空を友として、島から島へ港から港への旅を漂浪らふ一個の海員となつた。一八七九年には運轉手の免狀を獲得し、一英船に乗組んで東洋への船路に上つた。この航海の始終に就いては、一九〇二年に上梓した彼の著 Youth, and Other Tales に詳しく書いてある。一八八四年には船長となつた彼が船長となつてから一八九四年に、海上生活の幕を閉じてケントに居を營むに至るまでの十年間こそ、他日彼の文名を爲すあらゆる修養の積まれた時である。一介の水夫として魅惑の微笑を湛へた深海の明け暮れに、或は世のあらゆる莊嚴なる感念の及びも得ない朝陽の燦めく波に祈り、孤愁するに鬼をも拉ぐマドロスの胸に通ふ薄暮の寂寥に、限りある人の命の如何に小さく脆きかを觀するを常としてゐた彼も、ペンを執り文を漁り、港より港へミ移る毎に、島島の傳説、奇談、難船

談等に異郷の老人を船に紹する程の餘裕を得たのは、この時であつた。

一八九〇年と一八九四年との二度、彼は故郷のウクライナを訪れた。彼が愈海上生活を打切つてしまつたのは、コンゴで罹つた悪性な熱病の爲であつた。彼は一八九六年に結婚した。一八九五年勸められて Almyer's Folly を表はし一世にその偉才を認められて以來、晩年に至るまで名作大作を續續世に發表し、英現代作家中常に最高位に推され、その名聲を低うしたことがなかつた。彼は一九二四年八月三日、六十七歳にして没したけれども、海洋文藝の覇者として、老成作家の儀表として、その十九世紀後半より二十世紀初期に、英文學に貢獻せし點は誠に不朽なるものがある。

### 三

コンラッドの著作中、最も世に知られてゐるものを擧ぐれば、前述の外に、An Outcast of the Island, 1898; The Nigger of the Narcissus, 1897; Tales of Unrest, 1898; Lord Jim, 1900; Typhoon, 1903; The Mirror of the Sea, 1906; Twixt Land and Sea, 1912; Reminiscences, 1912; Chance, 1914; Within the Tides, 1915; Victory, 1915; The Shadow Line, 1917; The Arrow of Gold, 1919; The Rescue, 1920; 等がある。Twixt Land and Sea の Reminiscences は共に甚だ自叙傳的なものであるが後者は Personal Record と言ふ題目で一九一六年と一九一九年に改版された。彼の最大傑作と言はれるものに Nostromo, 1904; がある。その他 The Secret Agent;



Under Western Eyes 又戯曲に One Day More, 1905 等がある。ワン・デイ・モアは一九〇五年の六月に英國舞臺協會により演出され、The Secret Agent も一九二二年十一月 The London Ambassadors Theatre に於て上演された。

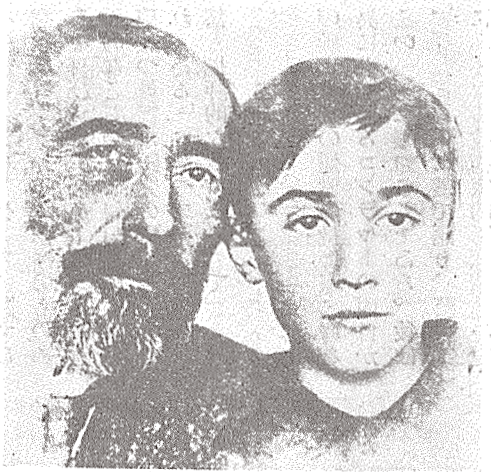
コンラッドは何處かで「搖籃から墓場に到るまで、總ての人の魂に纏ひ付いてゐる孤愁、悲哀、寂寥」に就いて語つたことがある。彼の作品の何れにも通じて表はれて來る一つの彼のみの獨自的な感傷が、この一語によつて最もよく表はされてゐるやうに思ふ。

孤獨さ、運命の神祕、及び人生を孤獨さ神祕なる運命さのみを通じて眺むる人人に限り、見出すこの出來る名狀し難い憂鬱……これ等こそ彼の作品のテーマを爲すところのものである。彼の小説を讀む人をして先づ慄然たらしむるものは不可解にして而も不可避な運命の觸手の繊細な動き、恐ろしく澄み切つた碧潭の如き作者の想像さ人生洞察力さ互に凡人の到達し得ざる微妙なる或一點で、觸れ合つて發する閃光であり、その閃光に浮び出づるヴィジョンの鮮明さである。彼の文章の力強い迫迫力は如何なくこの作者の持てるものを讀者の胸に傳へる。

彼の小説に表はれるシーンは、常に憂鬱で、宿命的なテーマを伴つてゐる。アフリカや、アメリカ沿岸のこゝを書いてゐるこゝもあるこゝはあるが、特に彼は淋しい南洋の或る島を舞臺にして、その小説を書いてゐるこゝが多い。南洋の孤島さ言へばコンラッドの小説を想ひ、コンラッドさ言へば海洋を思ひ、同時に文明さ隔絶された洋中の孤島に住む人人その孤島に繁茂する檳榔子の影をオアシスの

やうに戀ひ集ふ漂流の船乗、それ等の生命を大きく把握してゐる大自然の神祕等を思ひ出すにははるれない程、彼は求めて南洋諸島のこゝを書いてゐる。

「シエークスピアの持つてゐる Vision が悲劇的であつたさ言ひ得るならば、ハーディーのヴィジョンも、コンラッドも亦同様にトラジックなヴィジョンの所有者であつたさ言ひ得る。『Tragic Poet』は、最も恐ろしく、且つ最も悲痛なる人生の出來事が心に映じた際に、最



(影攝年四一九一)子女ドツランコをけ於にウカラク

も偉大で且つ最も美はしい觀念が、最も力強く胸に湧き起つて來るこゝの人である。『メグロズ氏の Joseph Conrad: Man and Artist』ケムブリッジのモードリン・カレッジのリチャーズ教授は言つた。

十九世紀の科學的文明の急激なる進展の爲に吾人人類の得たこゝろのものは決して尠くはない。天を摩す高樓、海を壓する巨船、航空機の進歩、あらゆる交通機關の完備、ラヂオの普及等等舉ぐるに暇のない文明の世に、然も尙、一殊の不安さ、拭ひ難い憂鬱さは、心

に尊さを感じず人間に纏ひ付いて居る。市井雜闘の間に教えられる點よりも、巷を遠く離れ、人寰を去つた大洋の孤島の生活に、寧ろ、より深く、より多く人類の教えられるこゝろがあるやうに考えられる、むくつけき一海員の彼コンラッドの作が、都門の巷に尊い光を投げてゐるのも、實に斯の點に於てではあるまいか。

彼の作中に表はれる人物は、讀む瞬間は、半ば實在のものやうに見えるが、やがて見知らぬ他人のやうに薄すれ行き、やがて、人が晝間の夢でも追つてゐるかのやうに朦朧乎として來る。その名前なごもやがて忘れてしまひ、嘗一つの感銘のみが、神祕そのものを實現したやうに極めて鮮明に讀者の腦裏に残象するのである。彼の作品の傾向を知るには Chance や Victory を讀めば大抵判る。Typhoon は變化極りなく、而も永遠に變らない大海原の文字繪として不朽なものである。

四

コンラッドの性格を傳へるためにその多くの知己文友が物した述作は枚擧げがない。一九二六年の八月號 Bookman に表はれた Mégroz 氏の Joseph Conrad: Man and Artist なぎは特に詳しく彼の人のさりを傳えてゐるその冒頭に「偉大なる藝術家で、コンラッドの如く、興味津津たる心理學的果審美學的な諸問題を示せるものは甚だ稀であり、現存せる著作家の眞實な會話がマローの長物語に表はれて來る或人物のやうに、傳説の圈内に葬り去られんさする時、尙最も重要視せらるべき未來を有するものも亦極めて尠い。」と書

き起してゐる。氏がコンラッドに會見したのは一九二二年十一月二日倫敦のウエスト・エンド・ホテルに於てであつた。恰もその夜は The London Ambassadors Theatre に於ける The Secret Agent の初日であつた。コンラッド夫人さ令息達はお茶が濟むさ間もなく大使座へ出掛けた。大使座では倫敦の總ての文士連がコンラッドの來るのを空しく待ちあぐんでゐた。その時コンラッドがその劇に關して漏した言葉がある。

「いや、いや、私は別に心配なぞしちやるません。劇場に行かうさも考へない、それは劇場は私を驚ろかすからです。私はまだ會つて芝居を見たこゝろがない。讀むこゝろは熱心に讀んでくれさも友人ゴールスワージー君の名作 Loyalties さへ見に行かなかつた。妻は芝居が好きで The Secret Agent の演出を見るために唯一の家族代表として出掛けました。その最後の場で子供の座席を得やうさしました。が駄目でした。座席料を支拂ふからさ言つたのだけれさ一つも空席がなかつたので『Book Office』で笑はれたに過ぎなかつた。然しあなた、私が初日にさんなに冷靜であり得るかをよく御覽の筈です……」又「いや、私は劇作を自ら樂しむのではない唯工夫をこらす練習の爲ださ思つてやつてゐるだけです。私はシークレット・エイゼントの戯曲化にも甚だ困つた。それは、あの本の肉を削りさるさ同様だつたからです。而も、私は遂にまだ會つて書いたこゝろのない如何にも物凄あれを仕上げました。」と。メグロズ氏は初日に於けるコンラッドの冷靜な態度は認めるに吝でないが、物柔らかな會話さ、一時も安靜にしてゐないその舉措さの對照が極めて甚だしく觀



られたと言つてゐる。又メグロー氏は「コンラッドはテイ・ルームで余を引見し、一度に余の空想を破壊してしまつた。彼は態度に於ては不死のマーローを見る如く外貌に於ては英化されたポーランド人であつた。部屋の中央に突然出て来た彼は、不思議な位丈高く、活気に満ち満ちて、而も優しかつた。余の空想が心配され彼の作品その他の種種の記憶によつて熱せられてゐた爲かも知れないが、彼の姿は恰もナーシサスに表はれて来る不可思議極まるニグロのやうに、その具象が如何にも神秘的で且つ意味深げに見えた。暖がれた囁きやき聲で、何か恐ろしい秘密でも露くやうに、喫煙室の方へ行かうと言つた。コンラッドの態度が神經質でその激越さが余を強く打つたことは、多くの證據で説明出来る。コンラッドは長年の間マレイの痛風で苦しめられるが、それは極度の創作活動の疲勞れ易い仕事と相俟つて、確に彼の神經を苦しめ、些細な困惑にも彼の激怒を買はしめてゐる。……中略……

斯うしたこの一つとして、彼は食時の實際中に、訪客がその座に居るのまかまはず、麵麩の小粒を弾丸のやうに打付けて夫人を愕ろかせるやうなことがあつた。然し彼が或男を好いてゐたら彼はその男をチャームするこのを大なる喜びとするのあつた。

或日、例の如く彼が痛風で苦しめられて、ロンドン・ホテルの一室で寝てゐた所へ、彼のエイゼントをしてゐるピンカーがやつて来て彼を呼んで言ふには「私は階下であなたにお逢ひしたいんで。ヘイ、ほんのつまらぬ……蠟燭立の野郎と呼ばれてる奴ですが……」と言ふ(コンラッドは「何? Edmund……(註、シ

エクスピアの悲劇 *King Lear* の中に出て来る Gloucester の私生兒の名……)「ぢやないか?」こ叫んで飛び起きて、身體の苦痛と喜びとの交錯した奇妙な表状でその人に會見したこともあつた。」

これ等は如何にもよくコンラッドの性格の一面を傳えてゐることで、英國人のユーモアを理解する人に取つては盡きぬ興味があるのである。コンラッドはチエスタートン氏の小著を激賞してデイッケンズに關する意見にコンラッドと同様のものあるを喜び「チエスタートン氏の逆説的なこぢつけの句の中には、正確且つ眞實な研究の奥深さが藏されてゐる」を語つてゐる、寛大で然も批評的な歡賞家として James, France, Hudson, Maryat, de Maupassant, Galtworthy 其他の研究に世の通常の批評家と異にしてゐるコンラッドの面目がこの一語に躍如としてゐる。彼は John Burns に就て語り、藝術家に必要な技術家的彫琢精進を説いてゐる。メグロー氏は「余はコンラッドの著『人生と文藝に關する手記』中の『再遊のポーランド』のこのを記憶してゐたので、彼がクラコウに於ける勉學時代に得たこのころのものは何であつたか尋ねた。彼の Poland Revised の中には彼が事實上獨逸に、その期間中抑留されることになつた。彼の歐洲大戰の勃發數日前、その子等と連れ立つて市街を散策したことが記してある。その文句の

中に  
「若し余にして彼の狭苦しき街に今少し居残り居たらむには、會つて余の胸中に描がきたるかの兇事の穢きなりて救はれ難きに到りしなるべし。彼の兇徴は余が頭上に蔽きり來り埃ミ、古き日の望に見る辛き虚榮の味ミを持



墓のドツランコ・フセヨジ

てる墓穴に吹く兇風は謎の如く、且つ執念くも迫り來りぬ」を記してゐる。そこには平常彼が取扱へるテーマに附隨せる想像的眞實性の一面が窺はれる。彼のセント・アン時代の學校に關する會話は、何等鼓張されなかつたより實相に近い追憶を含むものであるが、コ

ンラッドの書いた各方面の自傳が如何に不完全なものであるかを示した。故に回想録は極めて注意深く撰擇され且つ編纂されなければならぬものであると言ふことを教えられた」を記してゐる。又、  
「勿論、かの若しい士官は、コンラッドの青春時代を表徴するものであつた。そしてこのことは、この藝術家をして一の氣性を、實際經驗より創造せしむる内面的必要を満たすに役立つてゐる。航海するこはコンラッドに取つては後に書物を書くこととなり、實人生を賭して内觀省察する強い性質を有する内心の諸活動を外部に表はす一の手段となつたのである。

彼は生粹のポーランド人で、ミラー博士の略説せる如く、角張つた横顔の長い頭ミ、比較的に大きい感じのする中位の顔を持つてゐる生理的に言つても精神的に觀るも、瘦せぎすな内向性の人に屬してゐる……斯うした呼稱に就てはミラー博士の Types of Mind and Body を参考に讀されんことを……然もコンラッドの精神力は彼の著述に著しく現はれた。彼の著作に出て來る主要なる人物が如何に準外向性の生活をなしてゐるかは明らかでないである。彼の作に現はれる主要人物、即ち Almayat, Lord Jim, Lingard, Willems, Kurtz や、あの愚鈍な Peyrol ですからタータン……コンラッドの山奥の人が着る格子縞の羅紗……を着て空想の世界に住んだ、がそれは、藝術活動のさして活潑でない然も精進して行く詩人なごのやうに、全然精神圈内にのみ住んだのではなくて、これ等の皆が、實行家の生活に救ひを見出さうと努力する。だからこれ等の人物は空想的な性格を享けてゐる。彼等



はその創造者即ちコンラッドの如く、客観性を或程度迄認識するが、それは彼等自身の中に何物かの投影を残すのである。』

五

以上杜撰ながら、緒言、略傳、作品、性格等の大要に就いて述べた。以下蛇足ながら一章を添へて結尾の役を果したい。

誠實、忍耐、剛毅及び技術家的自覺をもつた觀念は、永い期間壓迫されながら、然も大地の息吹きに接觸してゐる人間に附いてゐるものであるが、これ等の觀念が、彼コンラッドの作品に浸透してゐることを認め得ることは吾人に取つて不窮なる歡喜である。

これ等は常に彼の作品に極めて浪漫的に描寫されてゐる要素をなし、然も彼が夢想を客觀化する必要に迫られた時、人物の種々な性格や、自然で活氣のない對象物に與へた生々しいリアリズムの背景を控へるものである。彼の美はしい技巧は小説に於て幾多の名篇をもつてゐるが、それは、實際生活へ彼自身を擴充して行き、その仕事に船乗にもあれ、著述にもあれ、その達人、練達の士たらしめんことを、彼のロマンチックな本能の結果と等しいものであつた。

彼は前にも述べたが一九二四年八月三日に没した。その日こそ彼の風格の縮圖を思はせるものがある。メグロー氏の言葉を借れば「即ちその日は曆では Shelley の誕生日 Maryat の終焉との間に當る。このロマンチックな詩人の生れた日と、かの素晴らしい海洋の事實物語の著作家の終焉との間に當る言ふことはコンラッドが浪漫的に生れ然もリアリスティックに成人したことを思ひ出さしめる。」となるのである。(一九二八、二四稿)——霧村生一

千里山歌壇

編輯局選

△冬 鈴木 夫

うらがれし森の姿のおはれより亡ぶるものを悲しみにけり

△心のかけ

ふと見たる人に心の移りゆく淋しき時のわれならぬわれ

△哀歌(岡田氏に捧ぐ)

悲しきは極りなけれ足乳れの母失ひし君にしあれば

△大寒孤影

ひたむきに文かき終へし小夜更けを永雨するらし寛なるなり

△

獨りぬてこの夜ふかみにくみ液める燒芋の香のなつかしきかな

いささかの風邪におそれるつむりなほ心をひそに人を變ふらし

△

忍ぶれこなほあまりあるみ思ひのころをいかで人知るべしや

△

心だにいかよひあれば文しじに言葉のあやはかざらずともよし

△

わきてぬなばすゞろにしぬぶこの夜らは君があたりも冬雨すくむ

△

八重垣のふりにしさに吾妹子は寒げみこの夜ひさりか寝らむ

△

△僚友大北君の入營を祝きて  
大君にささげし華ぞけふよりは貴くもかはれやま  
と撫子

△

たまきはるいのちをまごにつごめかしあめつちのむた君をまもらめ

The Kansai University Bulletin

Published Monthly By

The Kansai University Press

No. 56

February, 1928.

LEADING FEATURES OF CONTENTS

- Jean Racine, Life and Letters ..... by Mr. K. Kawamori, the lecturer of the University.
- Pythagorean Theorem..... by Prof. S. Kawamura.
- University News.
- Alumni News—Dr. Takeda, alumnus.
- Students' Activities.
- Miscellanea—Land Economics—Conrad, Man and Artist.
- Illustrations—University Library on the Verge of Completion—Jean Racine—The House of rue des Marais in which Racine lived from 1692 to 1699—New Year's Dinner Party held by the Members of Teaching Staffs of Commercial Schools attached to the University—Mr. C. Masuyama, the Executive Committee newly Installed—Photograph taken In Commemoration of the Celebration of Conferring Degree to Mr. S. Takeda—The late Mr. T. Suganuma—Dr. S. Takeda, Alumnus—Signatures of Tokyo Alumni—Conrad and His Son at Cracow—Tomb of Joseph Conrad.

學生諸君に告ぐ

千里山學報投稿に就て

▼學友會各部の記事、各種研究會、親睦會、縣人會その他學生諸會合の記事、論文、文藝作品等本誌に掲載希望の原稿は、總て千里山學舍豫科學生控所及び福島學舍學生入口左側に設置してある千里山學報投稿函に投入して下さい。但し寫真その他投入不能の材料は事務所又は學報局へ直接提出して下さい。▼毎號締切は前月二十五日限りとし、その以後の分は次號に廻します。

昭和三年二月 關西大學學報局

大正十二年六月十五日創刊  
昭和三年二月十五日印刷  
昭和三年二月十五日發行

大阪府此花區上福島北二丁目  
關西大學學報局

編輯兼發行人 森 川 太郎

印刷者 飯田彌之助

印刷所 鐵三有社

發行所 關西大學學報局

大阪府此花區上福島北二丁目

大阪府此花區上福島

關西大學

電話土佐橋 一〇四九  
七三七〇  
七五七〇

福島學舍

大阪府外千里山

關西大學

電話吹田 一一三

千里山學舍



### 業務要項

會計ニ關スル  
検査、調査  
鑑定、證明  
計算、整理  
立案

# 計理士 江村至身

事務所  
大阪府北區堂島ビル二〇一號室  
江村計理事務所 電五八九〇番  
自宅  
大阪府住吉區濱口町十番地

## 北陽商學業學校生徒募集

第一部 五ヶ年制 (文部省認定)

第一學年一〇〇名、上級若干名

第二部 本科四ヶ年制 (文部省認定  
特設夜間授業)

第一學年一〇〇名、上級若干名

願書二月十五日より受付

詳細ハ  
下記へ紹介

大阪市東淀川區(天六より約五分)  
新京阪電車淡路下車東へ  
電話 北七五七五番



○募集人員 第一學年二百名 尋常小學校卒業

○出願期間 三月一日ヨリ同二十五日マデ

關西甲種商業學校生徒募集

○入學考査 三月二十六日(人物、體格)

○入學心得 其ノ他ハ本校ニ就キ又ハ郵券五錢送付

大關西市上福島

關西大福島學舎

電話土佐堀五七〇番

關西大學第二商業學校生徒募集

○募集人員 第一學年約百八十名 高等小學卒業

○出願期間 二月二十日ヨリ三月二十四日マデ

○考査期日 三月二十五日(人物、體格)

○特長 甲種認可、修業年限三ケ年、夜間教授

大關西市上福島

關西大福島學舎

(會照ニ校本ヘ添フ錢五券郵ハ細詳)

宮島綱男先生監譯

マーシャル經濟學論集

菊版布裝全一册 紙數七百餘頁 定價金五圓五拾錢

本譯書の原書は、三年前物故せる世界經濟學界の泰斗アルフレッド・マーシャルの業績を記念するため、その高弟エー・シー・ピグー教授が編纂發行せるものである。收むるこころ遺稿中その創意にかかる學說並びに實際問題に關する論文二十篇を主とし、加ふるにピグー教授の回顧録、ジェー・エム・ケーンズ氏のマーシャル傳その他親しく故人の教へを受け、現に單り英國に於てのみならず全世界の學界に名を競ふ經濟學者數氏の筆に成る恩師を偲ぶ文献數篇を以てしてゐる。營に經濟學の研究に志す學徒に取つて必讀の書たるのみならず、一個の人格として偉人が印せる足跡を迎る意味に於て、一般讀書子に取つても亦悉く金玉の文字たるを失はぬであらう。

尙ほマーシャルの主要著作は從來既に大部分邦譯があつて經濟學の研究を裨益しつつあるが、今亦本譯書の出づるやこれらの譯書と相俟つて我國に於けるマーシャル研究を一層完全ならしむることを得るであらう。

發 兌

東京市神田區表保町二丁目(振替東京二八〇番)  
大阪西區阿波堀通四丁目(振替大阪四三番)

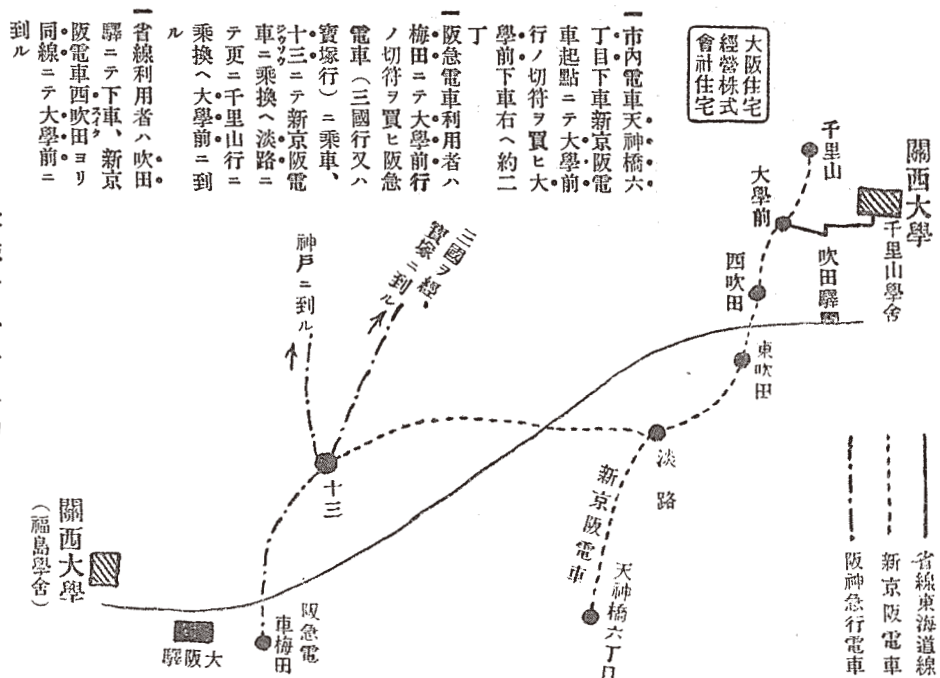
寶 文 館



# 關西大學學學生募集

學部		大學學科		專門部	
募集學年	出願期間	試驗日期	募集學年	出願期間	試驗日期
第一學年	三月一日ヨリ四月七日マデ	四月十日ヨリ十一月マデ	第一學年	二月十五日ヨリ四月五日マデ	四月七日及ビ同八日
第一學年	二月二十一ヨリ三月三十一日マデ	四月二日及ビ同四日	第一學年	二月二十一ヨリ三月三十一日マデ	四月二日及ビ同四日
法文學部、經濟學部			法律學科、經濟學科、商業學科、文學科		

關西大學千里山學舍交通略圖



大阪市外千里山  
**關西大學千里山學舍**  
 電話(吹田)一三三番  
 大阪市上福島  
**關西大學福島學舍**  
 電話(土佐堀)089・101・102番

會照ニ宛課務教舍學島福上ノ記明(部門專ハ又科豫學大・部學)科學願志ヘ添錢五券郵ハ細詳